

資料編

資料 1 南城市の地域福祉に関する現況

1. 市の動向

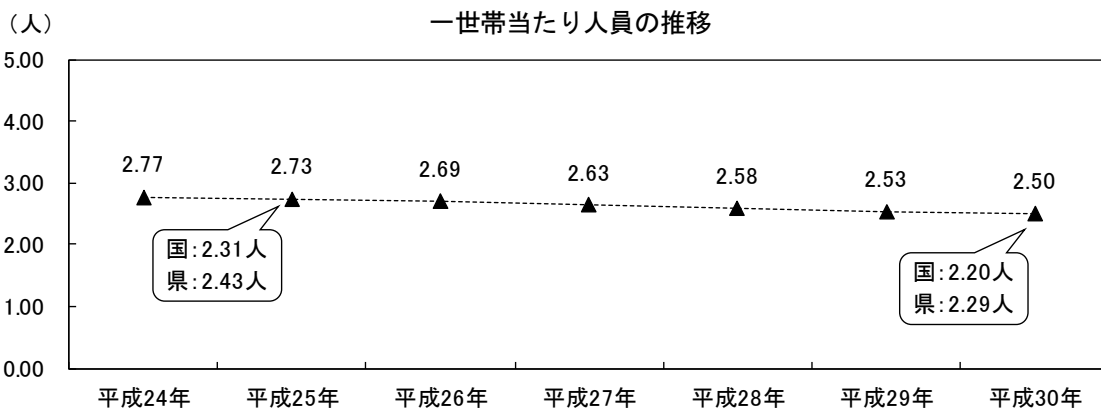
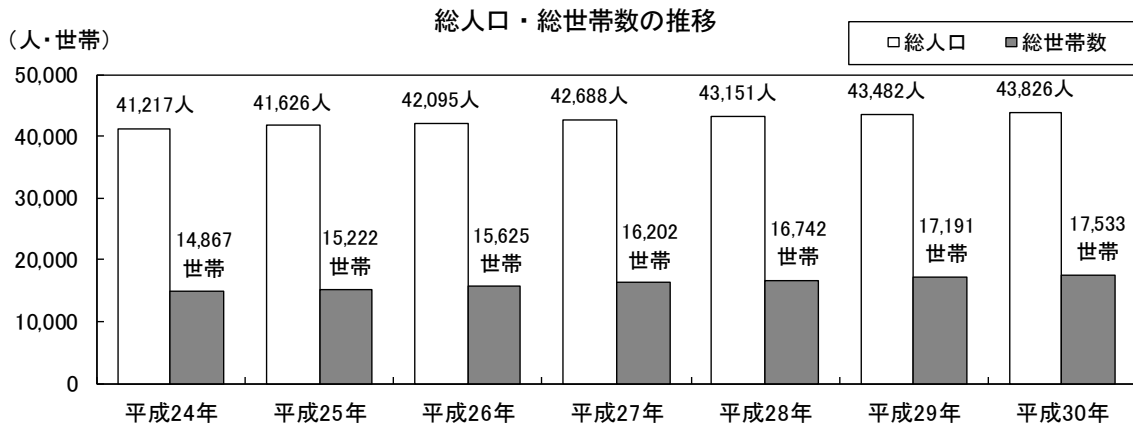
(1) 人口・世帯数

① 総人口・総世帯数

本市では総人口、総世帯数とも増え続けており、平成 30 年 10 月現在で総人口が 43,826 人、総世帯数が 17,533 世帯となっています。平成 24 年と比べ、総人口が 2,609 人、総世帯数が 2,666 世帯増加しています。

一世帯当たり人員については、毎年微減しており、平成 24 年の 2.77 人が、平成 30 年には 2.50 人となっています。

なお、平成 30 年の一世帯当たり人員は、全国、沖縄県よりやや高くなっています。



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）

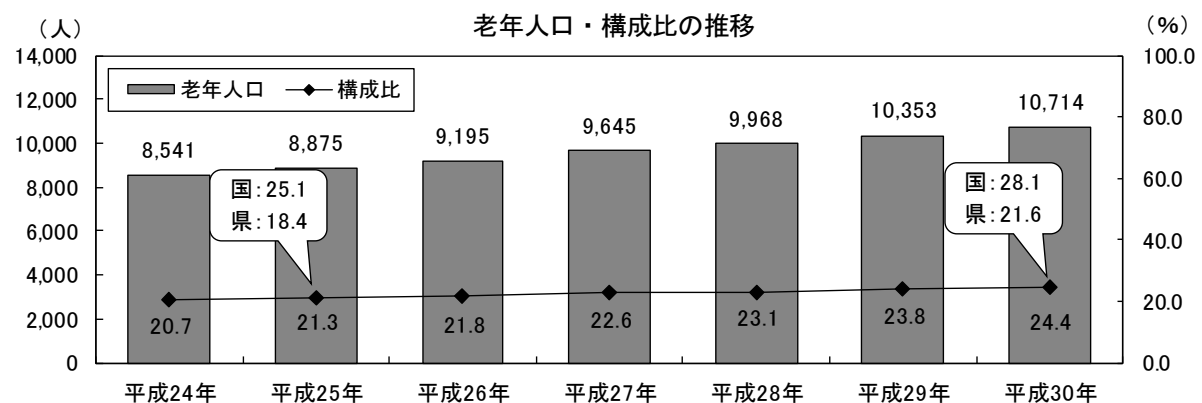
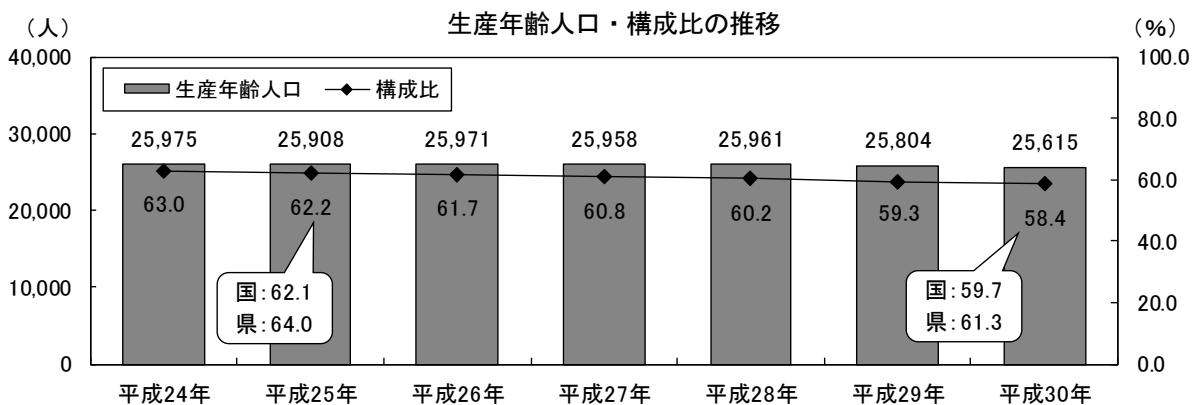
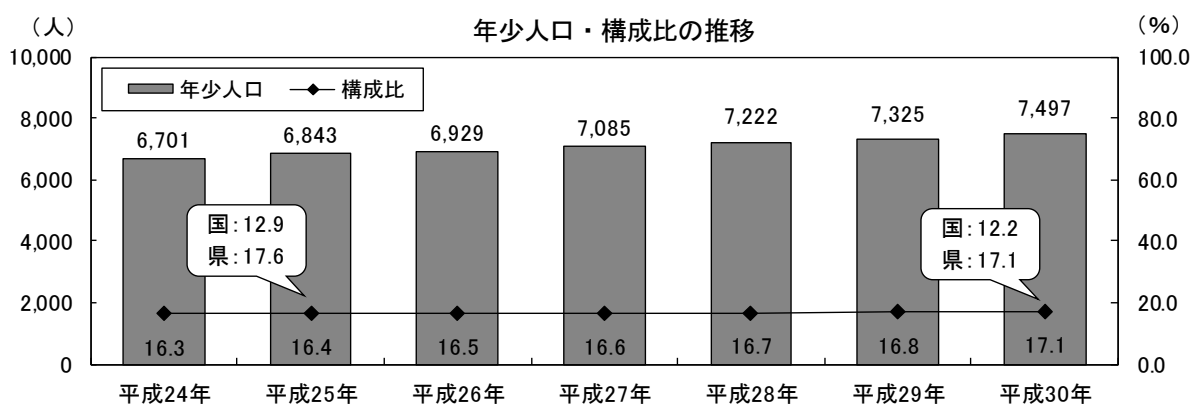
沖縄県・全国は住民基本台帳（平成 25 年 4 月 1 日現在、平成 30 年 1 月 1 日現在）

②年齢3区分別人口

年齢3区分別人口の推移を見ると、0～14歳の「年少人口」は増加傾向となっています。また、15～64歳の「生産年齢人口」は横ばい傾向ですが、平成29年、30年は前年より減少しています。65歳以上の「老年人口」は、毎年増え続けており、3区分の中で最も増加が大きいです。

年齢3区分の構成比を見ると、年少人口は16%前後で推移しており、少しずつながら上昇傾向が見られます。生産年齢人口は年々減少傾向にあり、平成30年には58.4%となっています。老年人口の構成比は平成24年の20.7%から毎年上昇しており、平成30年には24.4%と3.7ポイント高くなっています。

構成比について全国、沖縄県と比べると、年少人口比は本市が全国より高く、沖縄県と同率、老年人口比は全国より低く、沖縄県より高くなっており、全国と比べると若い世代が多い市であることがわかります。



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）
 沖縄県・全国は総務省人口推計（各年10月1日現在）

③行政区別世帯数と人口

平成30年10月1日現在の行政区別の世帯数と人口をみると、世帯・人口ともに「津波古」がもっとも多く、次に「大里グリーンタウン」、「船越」が同程度で続きます。

一世帯あたり人員は、「大里ニュータウン」、「第二グリーンタウン」が3.47人と最も多くなっています。

行政区別世帯数・人口

単位：人、世帯、%

行政区	世帯数	人口			構成比		1世帯 当たり人員	
		総数	男性	女性	世帯	人口		
玉 城	親慶原	449	1,123	559	564	2.6	2.6	2.50
	垣花	146	359	186	173	0.8	0.8	2.46
	仲村渠	101	227	119	108	0.6	0.5	2.25
	百名	343	813	397	416	2.0	1.9	2.37
	新原	89	214	109	105	0.5	0.5	2.40
	玉城	83	188	101	87	0.5	0.4	2.27
	中山	89	212	105	107	0.5	0.5	2.38
	奥武	358	926	471	455	2.0	2.1	2.59
	志堅原	214	559	285	274	1.2	1.3	2.61
	堀川	240	572	289	283	1.4	1.3	2.38
	富里	176	471	234	237	1.0	1.1	2.68
	當山	170	453	209	244	1.0	1.0	2.66
	屋嘉部	275	656	343	313	1.6	1.5	2.39
	糸数	216	499	256	243	1.2	1.1	2.31
	喜良原	131	322	164	158	0.7	0.7	2.46
	船越	651	1,944	999	945	3.7	4.4	2.99
	愛地	419	1,157	558	599	2.4	2.6	2.76
	前川	477	1,106	583	523	2.7	2.5	2.32
	親慶原(県営親原団地)	51	163	69	94	0.3	0.4	3.20
	喜良原(朝日の家)	110	110	39	71	0.6	0.3	1.00
小計(玉城)	4,788	12,074	6,075	5,999	27.3	27.5	2.52	
知 念	志喜屋	268	683	371	312	1.5	1.6	2.55
	山里	98	215	112	103	0.6	0.5	2.19
	具志堅	80	195	103	92	0.5	0.4	2.44
	知念	233	576	311	265	1.3	1.3	2.47
	吉富	60	133	71	62	0.3	0.3	2.22
	久手堅	136	355	184	171	0.8	0.8	2.61
	安座真	244	590	305	285	1.4	1.3	2.42
	知名	266	659	336	323	1.5	1.5	2.48
	海野	173	393	193	200	1.0	0.9	2.27
	久原	186	487	256	231	1.1	1.1	2.62
	久高	145	241	122	119	0.8	0.5	1.66
	具志堅(刑務所)	50	100	62	38	0.3	0.2	2.00
	知念(自衛隊1)	26	26	22	4	0.1	0.1	1.00
	久手堅(老人ホーム)	70	70	22	48	0.4	0.2	1.00
知念(県営団地)	49	137	58	79	0.3	0.3	2.80	
小計(知念)	2,084	4,860	2,528	2,332	11.9	11.1	2.33	

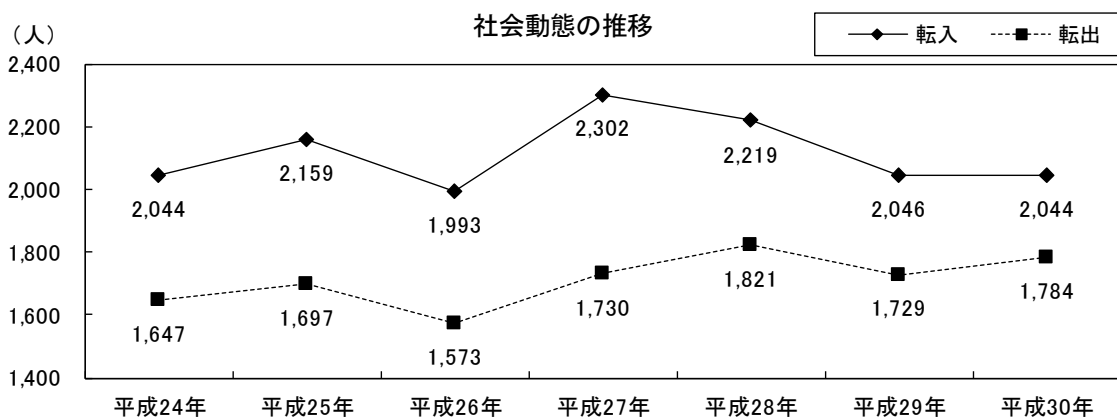
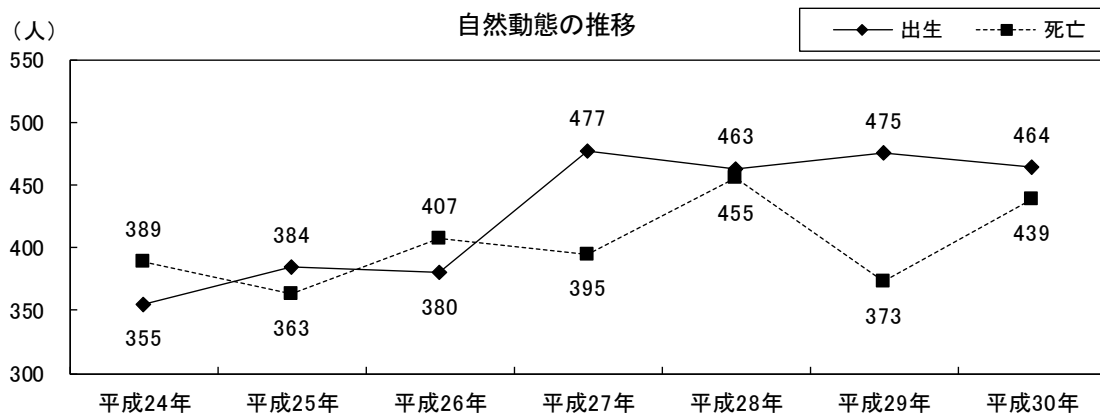
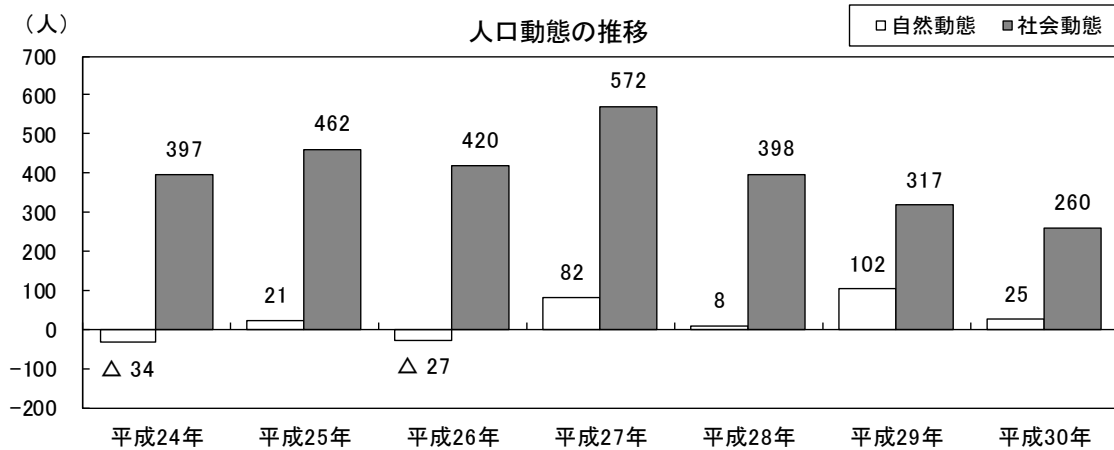
行政区		世帯数	人口			構成比		1世帯 当たり人員
			総数	男性	女性	世帯	人口	
佐 敷	津波古	1,474	3,612	1,779	1,833	8.4	8.2	2.45
	小谷	121	270	141	129	0.7	0.6	2.23
	新里	392	1,009	502	507	2.2	2.3	2.57
	兼久	218	581	287	294	1.2	1.3	2.67
	佐敷	284	721	368	353	1.6	1.6	2.54
	手登根	323	850	441	409	1.8	1.9	2.63
	伊原	99	241	121	120	0.6	0.5	2.43
	屋比久	139	322	158	164	0.8	0.7	2.32
	外間	73	183	93	90	0.4	0.4	2.51
	富祖崎	161	364	196	168	0.9	0.8	2.26
	仲伊保	203	472	236	236	1.2	1.1	2.33
	新開	506	1,174	611	563	2.9	2.7	2.32
	県営団地	161	400	187	213	0.9	0.9	2.48
	第二団地	93	242	108	134	0.5	0.6	2.60
	県営仲伊保団地	54	174	87	87	0.3	0.4	3.22
	自衛隊	92	92	85	7	0.5	0.2	1.00
	小谷(小谷園)	70	70	9	61	0.4	0.2	1.00
	つきしろ	519	1,228	621	607	3.0	2.8	2.37
	小計(佐敷)	4,982	12,005	6,030	5,975	28.4	27.4	2.41
	大 里	西原	56	134	72	62	0.3	0.3
南風原		130	349	179	170	0.7	0.8	2.68
平良		183	509	253	256	1.0	1.2	2.78
嶺井		223	598	306	292	1.3	1.4	2.68
嶺井団地		123	305	165	140	0.7	0.7	2.48
古堅		127	304	157	147	0.7	0.7	2.39
福原		250	584	304	280	1.4	1.3	2.34
島袋		408	1,094	561	533	2.3	2.5	2.68
当間		239	674	339	335	1.4	1.5	2.82
仲程		336	909	438	471	1.9	2.1	2.71
高宮城		129	368	187	181	0.7	0.8	2.85
銭又		61	161	85	76	0.3	0.4	2.64
平川		180	497	245	252	1.0	1.1	2.76
稲嶺		478	1,284	623	661	2.7	2.9	2.69
大里グリーンタウン		740	1,897	931	966	4.2	4.3	2.56
目取真		313	850	439	411	1.8	1.9	2.72
湧稲国		228	596	292	304	1.3	1.4	2.61
大城		405	1,020	519	501	2.3	2.3	2.52
稲福		176	411	224	187	1.0	0.9	2.34
真境名		124	329	175	154	0.7	0.8	2.65
大里団地		125	295	128	167	0.7	0.7	2.36
大里第二団地		70	220	93	127	0.4	0.5	3.14
大里ニュータウン		242	839	409	430	1.4	1.9	3.47
第二グリーンタウン		132	458	228	230	0.8	1.0	3.47
島添の丘		49	49	24	25	0.3	0.1	1.00
東雲の丘		99	100	26	74	0.6	0.2	1.01
鶴生の叢		53	53	33	20	0.3	0.1	1.00
小計(大里)	5,679	14,887	7,435	7,452	32.4	34.0	2.62	
計	17,533	43,826	22,068	21,758	—	—	2.50	

資料：住民基本台帳（平成30年10月1日現在）

(2) 人口動態

本市の人口動態をみると、出生と死亡による自然動態では、近年を見ると、平成27年から出生数が死亡数を上回っており、平成30年では25人の増加となっています。

また、転入と転出による社会動態では、転入が転出を上回っていますが、増加数は減少しており、平成30年は260人増となっています。



資料：沖縄県企画部統計課「沖縄県の推計人口」（各年1月～12月まで）

(3) 世帯構成

国勢調査より本市の世帯構成の推移を見ると、親族世帯、単独世帯ともに年々増加していますが、一般総世帯数に占める割合をみると、単独世帯が増加しており、平成12年の13.2%から27年には21.6%となっています。単独世帯が高くなる一方で、親族世帯は低下しています。

また、親族世帯における65歳以上世帯人員のいる世帯割合は、平成12年の36.8%が27年には42.0%に上昇しています。

平成27年における世帯の構成比を沖縄県と比べると、親族世帯は本市が高く、単独世帯は低くなっています。単独世帯が増えている本市ですが、県と比べてその比率はまだ低い状況にあります。

世帯構成の推移

単位：世帯、%

	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年		沖縄県(%)
		%		%		%		%	
一般世帯数	10,826		11,533		12,644		14,249		
A 親族のみの世帯	9,370	86.6	9,844	85.4	10,307	81.5	11,049	77.5	66.0
核家族世帯	7,592	70.1	8,052	69.8	8,764	69.3	9,547	67.0	58.6
その他親族世帯	1,778	16.4	1,792	15.5	1,543	12.2	1,502	10.5	7.5
B 非親族世帯	23	0.2	0	0.0	90	0.7	120	0.8	1.3
C 単独世帯	1,433	13.2	1,661	14.4	2,245	17.8	3,077	21.6	32.4
高齢者単独世帯	653	6.0	765	6.6	1,011	8.0	1,321	9.3	9.2
3世代世帯	1,370	12.7	1,365	11.8	1,068	8.4	963	6.8	4.5
65歳以上人員のいる世帯	3,988	36.8	4,684	40.6	5,187	41.0	5,982	42.0	32.8
一世帯当たり人員	3.48		3.30		3.02		2.83		2.50

資料：国勢調査

% (構成比) は一般世帯総数に対する割合



(4) 業種別男女別就業者数

平成 27 年の就業状況を見ると、第三次産業に関わっている人が圧倒的に多く、就業者の 70% を占めています。特に「医療、福祉」と「卸売業、小売業」が非常に多く、「医療、福祉」では女性が圧倒的に多いです。また「卸売業、小売業」では男女ほぼ同率の割合となっています。

第一次産業や第二次産業では、いずれも男性の就業者数が女性の就業者数を大きく上回っています。

第三次産業では、「運輸業、郵便業」、「電気、ガス、熱供給、水道業」でいずれも男性が 80% 台と高く、また、「公務」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「不動産業、物品賃貸業」、「情報通信業」、「複合サービス業」でも男性が 60% 台から 70% 台を占めます。

一方、女性では「医療、福祉」が 73.9% と最も高く、「宿泊業、飲食サービス業」、「教育、学習支援」、「金融業、保険業」でもそれぞれ 60% 前後を占めています。

業種別男女別就業者数

単位：人、%

業 種	就業者数			構成比 (%)	
	総数	男性	女性	男性	女性
	18,617	10,478	8,139	56.3	43.7
第一次産業	1,719	1,232	487	71.7	28.3
農業、林業	1,582	1,108	474	70.0	30.0
漁業	137	124	13	90.5	9.5
第二次産業	3,230	2,529	701	78.3	21.7
鉱業、採石業、砂利採取業	6	5	1	83.3	16.7
建設業	2,025	1,783	242	88.0	12.0
製造業	1,199	741	458	61.8	38.2
第三次産業	13,194	6,446	6,748	48.9	51.1
電気、ガス、熱供給、水道業	84	70	14	83.3	16.7
情報通信業	335	208	127	62.1	37.9
運輸業、郵便業	1,060	896	164	84.5	15.5
卸売業、小売業	2,625	1,244	1,381	47.4	52.6
金融業、保険業	259	101	158	39.0	61.0
不動産業、物品賃貸業	254	161	93	63.4	36.6
学術研究、専門・技術サービス業	480	322	158	67.1	32.9
宿泊業、飲食サービス業	1,005	384	621	38.2	61.8
生活関連サービス業、娯楽業	727	318	409	43.7	56.3
教育、学習支援業	886	343	543	38.7	61.3
医療、福祉	3,019	788	2,231	26.1	73.9
複合サービス業	225	137	88	60.9	39.1
サービス業	1,286	767	519	59.6	40.4
公務	949	707	242	74.5	25.5
分類不能の産業	474	271	203	57.2	42.8

資料：国勢調査（平成 27 年）

構成比：総数に対する割合

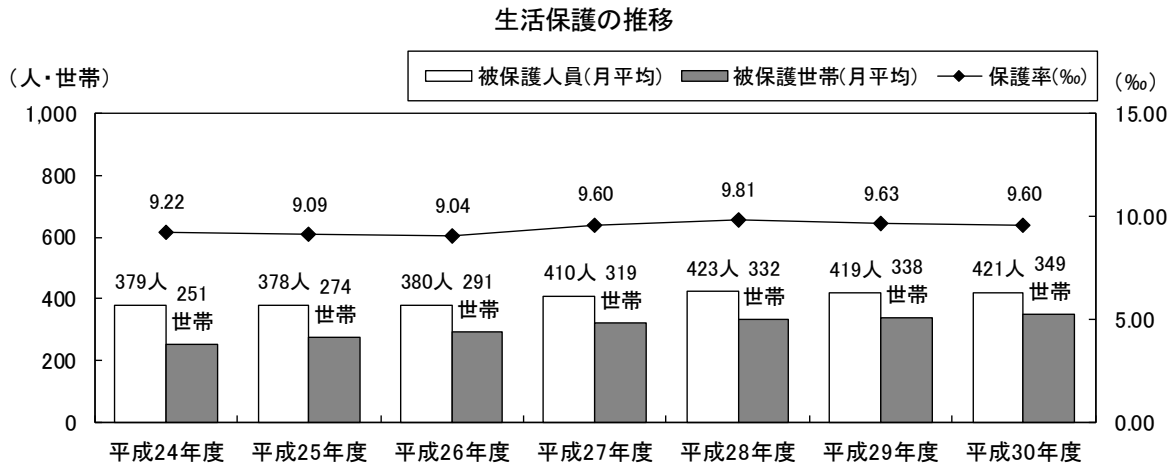
(5) 生活保護世帯

①保護率

生活保護の被保護人員、被保護世帯とも平成 27 年より横ばい傾向にありますが、平成 30 年は、24 年と比べて被保護人員が 1.1 倍、被保護世帯が約 1.4 倍の増となっています。

また、保護率も平成 27 年より横ばい傾向にありますが、平成 24 年の 9.22%※と比べ、30 年には 9.6‰となっています。

※‰=パーミル（千分率）



資料：南城市福祉事務所概要

※保護率は人口千人あたりの被保護人員の割合

②生活保護世帯の内訳

生活保護世帯の内訳を見ると、「高齢者世帯」が最も多くなっており、平成 30 年では 223 人になっています。「高齢者世帯」は平成 24 年に比べて 2 倍となっています。

生活保護世帯の内訳（月平均世帯数）

単位：世帯

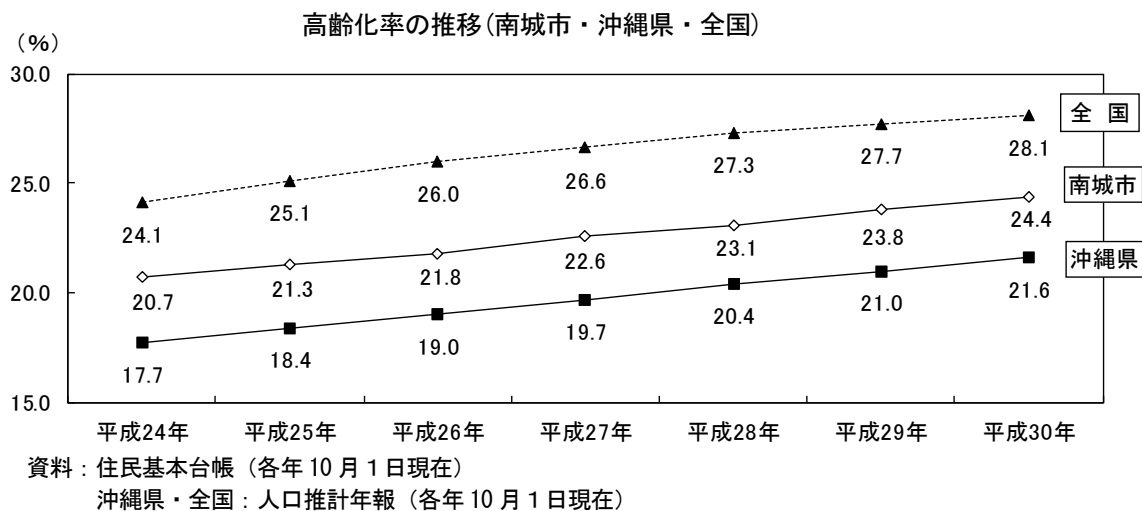
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
高齢者世帯	107	132	149	169	191	210	223
母子世帯	13	13	13	12	11	7	6
障がい者世帯	33	37	39	43	44	42	43
傷病世帯	63	52	31	29	34	39	43
その他世帯	33	39	55	59	48	36	29
計	249	273	287	312	328	334	344

資料：南城市福祉事務所概要

2. 高齢者の概況

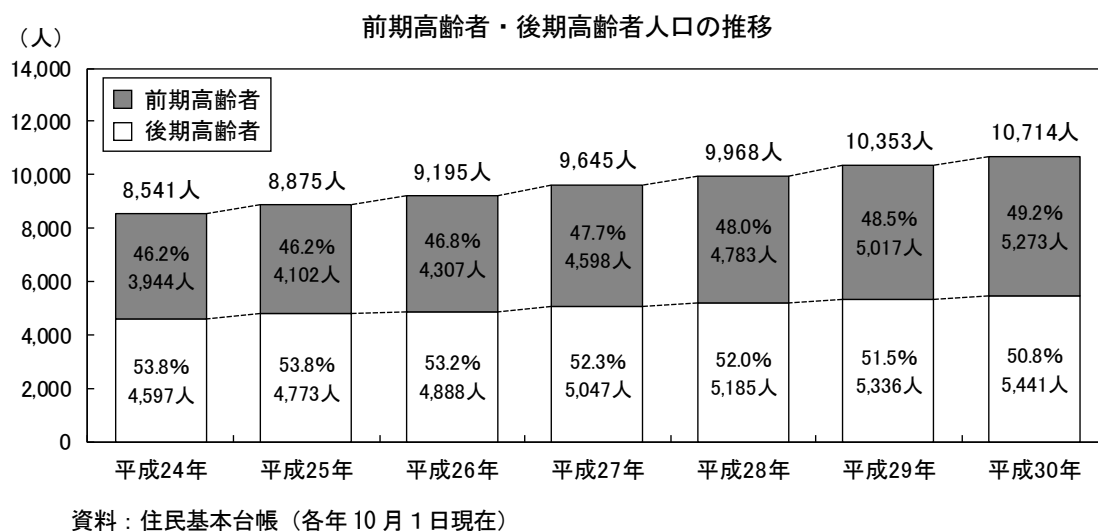
(1) 高齢化率

本市の高齢化率は上昇傾向にあり、平成24年の20.7%が30年には24.4%に上がっています。また、市の高齢化率は全国より低く、3.7ポイント程の差となっています。



(2) 前期・後期高齢者人口

高齢者を前期(65～74歳)、後期(75歳以上)別に見ると、平成24年以降、各年とも後期高齢者が前期高齢者より多くなっていますが、高齢者全体に占める後期高齢者人口の割合は平成25年より微減傾向になっています。



(3) 地区別高齢化率

地区別の高齢化率をみると、「知念」が 32.3%と最も高くなっています。一方、高齢化率が低いのは、「大里」の 21.4%となっています。

地区別高齢化率

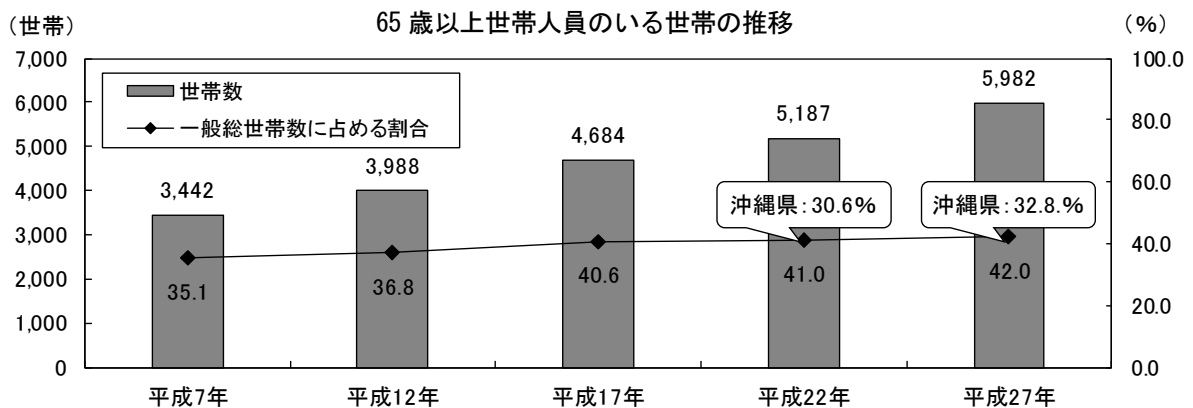
単位：人、世帯、%

	世帯数 (再掲)	人口 (再掲)	65 歳以上人口			高齢化率
			前期高齢者	後期高齢者	合計	
玉城	4,788	12,074	1,361	1,546	2,907	24.1
知念	2,084	4,860	727	844	1,571	32.3
佐敷	4,982	12,005	1,509	1,537	3,046	25.4
大里	5,679	14,887	1,676	1,514	3,190	21.4
計	17,533	43,826	5,273	5,441	10,714	24.4

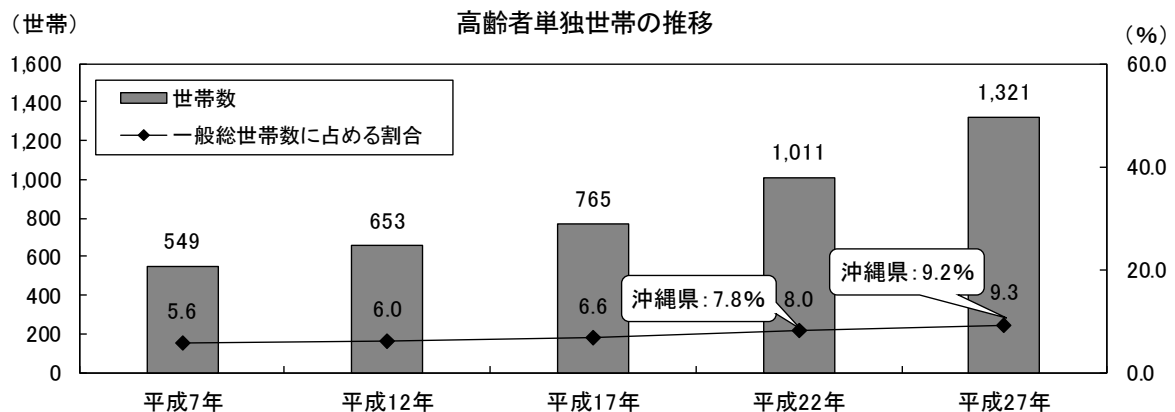
資料：住民基本台帳（平成 30 年 10 月 1 日現在）

(4) 高齢者のいる世帯

国勢調査から本市の「65 歳以上世帯人員のいる世帯」、「高齢者単独世帯」の推移をみると、いずれも増え続けており、世帯数は平成 7 年に比べて平成 27 年では、「65 歳以上世帯人員のいる世帯」が 1.7 倍、「高齢者単独世帯」が 2.4 倍となっています。また、一般総世帯数に占める割合も上昇しており、平成 27 年では「65 歳以上世帯人員のいる世帯」が 42.0%、「高齢者単独世帯」が 9.3%となっています。沖縄県と比べると、平成 27 年では、「高齢者単独世帯」はほぼ同率ですが、「65 歳以上世帯人員のいる世帯」は本市が 9.2 ポイント高いです。



※高齢者単独世帯含む

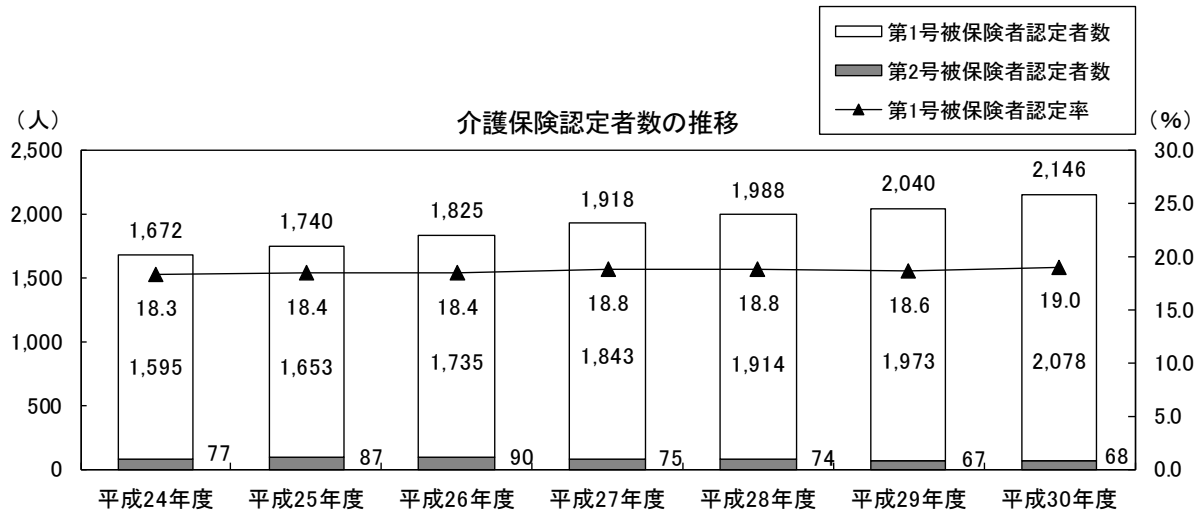


資料：国勢調査

(5) 介護保険の状況

① 認定者数

訪問介護や通所介護、老人福祉施設等の「介護保険サービス」を利用するための要支援・要介護認定者数は増え続けており、平成24年度の1,672人に対し、平成30年度は2,146人と、この6年間で474人増えています。また、高齢者に占める認定者割合を示す認定率は、平成24～29年度は18%台でしたが、平成30年度には19%に達しています。

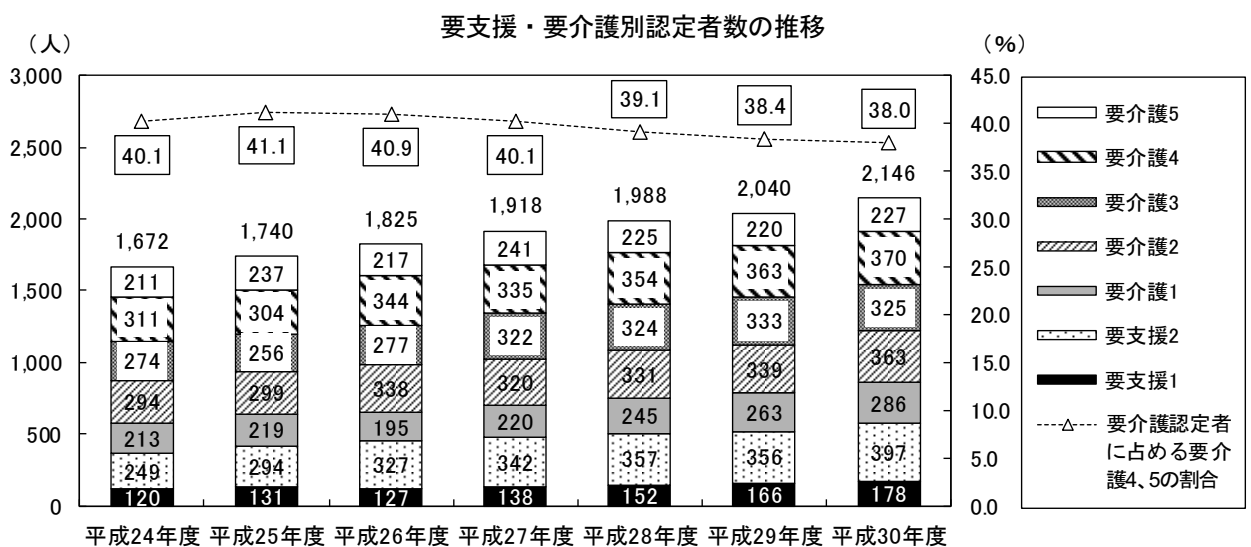


資料：南城市福祉事務所概要

② 要介護度別認定者数

要介護度別に認定者数を見ると、平成26年度までは要介護4が最も多くなっていますが、平成27年度からは要支援2が最も多くなっています。

要介護認定者に占める重度者(要介護4、5)の割合は、平成24年度の40.1%が30年度には38.0%となっています。



資料：南城市福祉事務所概要（2号被保険者含む）

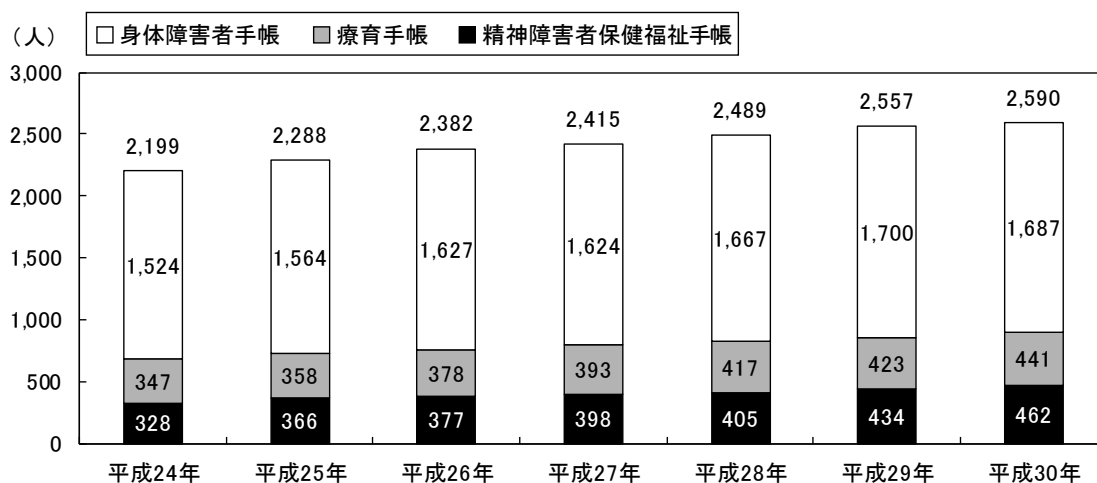
3. 障がい者の概況

(1) 障害者手帳所持者

身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者、精神障害者保健福祉手帳所持者は全て増加傾向にあります。また、全体の手帳所持者は、平成24年の2,199人に対し、平成30年では2,590人と391人の増となっています。

各手帳所持者の構成比を見ると、「身体障害者手帳」が最も多く、全体の約6割を占めています。「療育手帳」と「精神障害者保健福祉手帳」は同程度となっています。

障害者手帳所持者の推移



単位：%

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
構成比	身体障害手帳	69.3	68.4	68.3	67.2	67.0	66.5	65.1
	療育手帳	15.8	15.6	15.9	16.3	16.8	16.5	17.0
	精神障害者保健福祉手帳	14.9	16.0	15.8	16.5	16.3	17.0	17.8

資料：生きがい推進課（各年度末現在）

(2) 身体障害の種類別人数

身体障害の種類別人数を見ると、「肢体不自由(上・下・体幹)」が最も多く、次に「内部機能障害」となっており、両障害を合わせると、平成28年度、平成30年度とも全体の約8割を占めています。

身体障害の種類別人数の推移

単位：人、%

	平成28年度		平成30年度		
	人数	構成比	人数	構成比	対平成28年増数
視覚障害	93	5.6	87	5.2	-6
聴覚障害・平衡機能障害	200	12.0	230	13.6	30
音声・言語・そしゃく機能障害	26	1.6	25	1.5	-1
肢体不自由(上・下・体幹)	708	42.5	683	40.5	-25
内部機能障害	640	38.4	662	39.2	22
合計	1,667		1,687		20

資料：生きがい推進課（各年度末現在）

(3) 障害の程度

①身体障がい者

身体障がい者の障害の程度は、1級が562人と最も多く、続いて4級が349人、3級が310人、2級が270人となっています。

「内部機能障害」では、1級、3級、4級が多く、「肢体不自由(上・下・体幹)」では1級、2級多くなっています。

身体障害の程度

単位：人

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
視覚障害	43	23	7	7	3	4	87
聴覚障害・平衡機能障害	14	30	28	70	0	88	230
音声・言語・そしゃく機能障害	2	7	12	4	0	0	25
肢体不自由(上・下・体幹)	184	205	107	86	70	31	683
内部機能障害	319	5	156	182	0	0	662
合計	562	270	310	349	73	123	1,687

資料：生きがい推進課（平成31年3月末現在）

②知的障がい者

知的障がい者の障害の程度をみると、最も軽度の「B2」が168人で38.1%、「B1」が147人で33.3%となっており、これらを合わせた“B判定”が知的障がい者(療育手帳所持者)全体の7割を占めています。

知的障害の程度

単位：人、%

	人数	
	人数	構成比
A1	28	6.3
A2	98	22.2
B1	147	33.3
B2	168	38.1
合計	441	

資料：生きがい推進課（平成31年3月末現在）

③精神障がい者

精神障がい者の障害の等級は、「2級」が254人と最も多く、全体の5割半ばを占めます。

精神障がい者の等級

単位：人、%

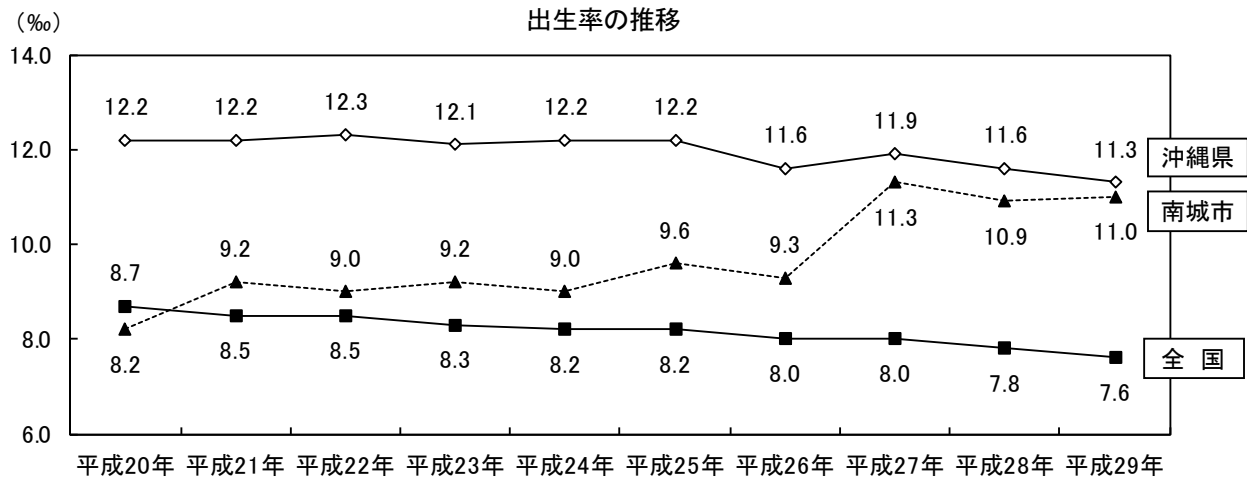
	人数	
	人数	構成比
1級	137	29.7
2級	254	55.0
3級	71	15.4
合計	462	

資料：生きがい推進課（平成31年3月末現在）

4. 子どもの概況

(1) 出生率

本市の出生率は、全国より高い位置で推移していますが、沖縄県よりは低くなっています。平成29年では沖縄県と同程度、全国より3.4ポイント高くなっています。

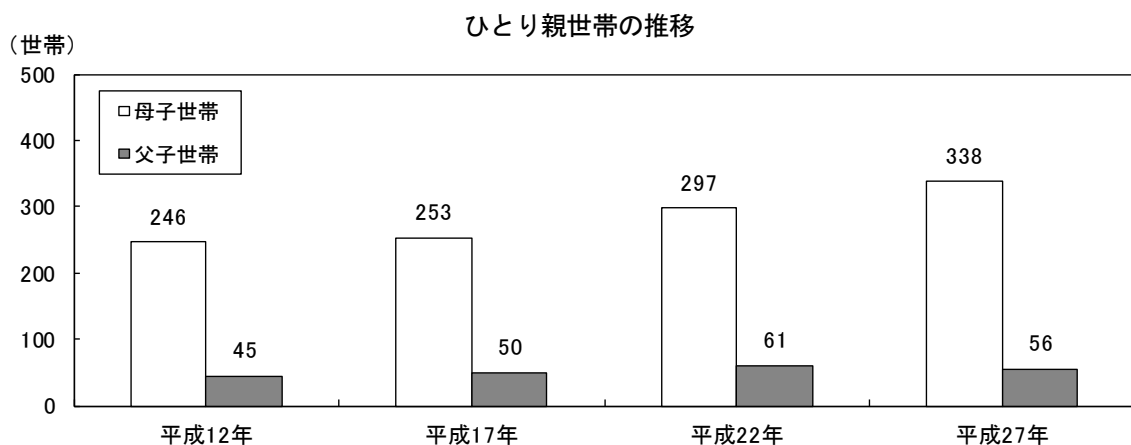


資料：「沖縄県統計年鑑」「日本の統計」
出生率：1年間の出生数／10月1日現在の人口×1000

(2) ひとり親世帯

国勢調査より、ひとり親世帯の状況を見ると、母子世帯が増加傾向にあり、平成12年の246世帯から、平成27年では338世帯と1.3倍の増となっています。

父子世帯は平成22年では61世帯とやや増えましたが、その他の年度は40～50台で推移しています。



資料：国勢調査

(3) 保育所(園)

①認可保育園児数

市内には、18の認可保育園があります。平成31年4月では、定員1,429人に対し1,465人を受け入れています。年齢別に見ると、2歳児から3歳児が300人を超えており、特に3歳が321人で最も多くなっています。なお、0歳児については産休や育休明けによる年度途中の入所希望が増える傾向となっています。

認可保育園別年齢別利用児童数

単位：人

保育園名	定員	利用児童数						
		計	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
めばえ保育園	90	92	8	18	18	18	16	14
めだか保育園	90	83	6	11	17	19	16	14
馬天保育園	90	93	6	18	17	20	19	13
さしき保育園	90	91	9	18	18	18	17	11
南城みなみ保育園	60	66	8	12	14	17	15	0
佐敷中学校区計	420	425	37	67	84	92	83	42
知念あさひ保育園	90	87	7	17	18	17	18	10
知念中学校区計	90	87	7	17	18	17	18	10
バンビ保育園	90	95	14	18	21	24	18	0
小羊保育園	100	115	10	24	30	24	27	0
以和貴保育園	90	75	7	14	17	20	17	0
どんぐり保育園	60	47	7	11	12	11	6	0
愛地友遊保育園	60	67	6	12	18	14	11	6
玉城中学校区計	400	399	44	79	98	93	79	6
愛護保育園	90	102	11	18	17	20	21	15
松の実保育園	90	96	12	19	18	23	21	3
おひさま保育園	60	63	9	12	13	12	17	0
木の国保育園	90	93	9	18	18	19	20	9
むぎの子共同保育園	69	68	9	12	12	12	13	10
おおざと保育園	60	62	12	14	12	15	9	0
輝咲保育園	60	70	7	10	18	18	17	0
大里中学校区計	519	554	69	103	108	119	118	37
総数	1,429	1,465	157	276	308	321	298	105

平成31年4月1日現在

②待機児童数

市内の保育所待機児童数は、平成 31 年で 145 人となっており、平成 24 年以降では、最も多くなっています。平成 30 年以降は 140 人を超えており、早急な待機児童解消が不可欠となっています。

待機児童数の推移

単位：人

	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年
申込者数	1,398	1,421	1,529	1,570	1,706	1,857	2,038	2,032
利用人数	1,308	1,302	1,351	1,351	1,510	1,680	1,781	1,826
待機児童数	62	71	112	96	77	94	143	145
待機率	4.4	5.0	7.3	6.1	4.5	5.1	7.0	7.1

資料：南城市（各年 4 月 1 日現在）

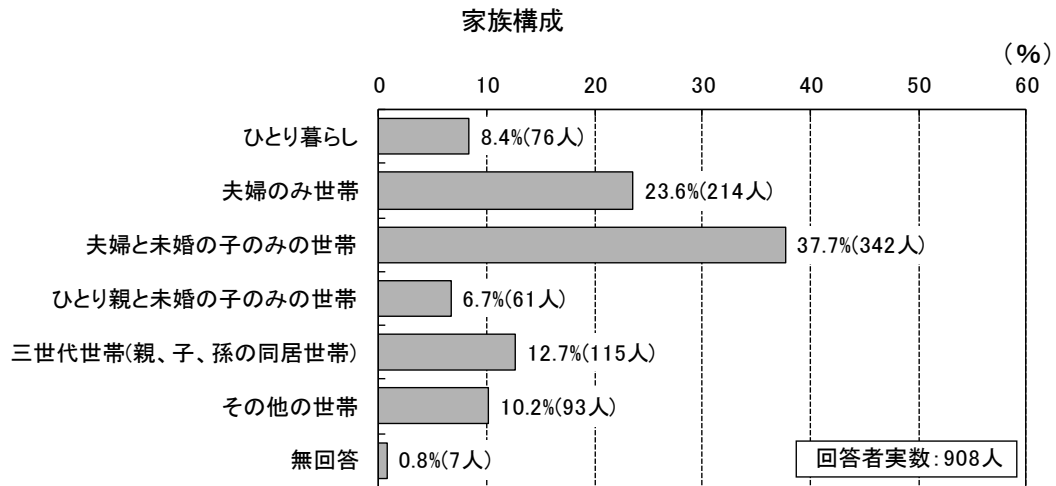


資料2 市民意識調査結果より（令和元年度実施）

◎回収状況 発送数：3,000件 回収数：908件 回収率：30.3%（郵送による配布・回収）

(1) 家族構成

- ・家族構成は、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が37.7%、年代別にみると、20代～40代が多く半数以上あり、特に「20代」は60.6%あります。「夫婦のみ世帯」が23.6%、「三世帯世帯（親、子、孫の同居世帯）」が12.7%となっています。
- ・「夫婦のみ世帯」は、「40代」までは10%未満ですが、「60代」では38.9%、「70代」では45.9%と高いです。
- ・「ひとり暮らし」は、「50代」までは10%未満ですが、「60代」では10.4%、「70代」では14.5%あります。

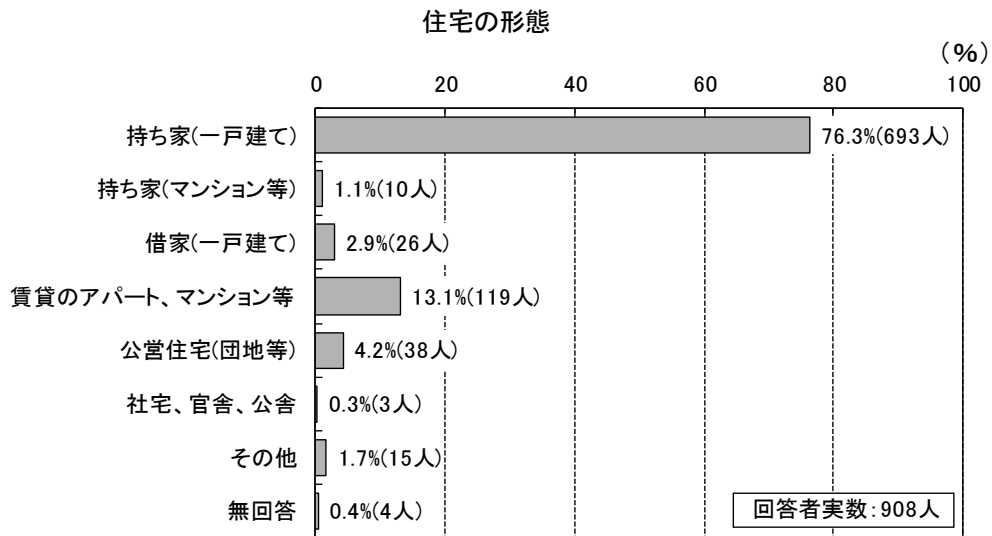


家族構成（年代別）

	回答者実数	ひとり暮らし	夫婦のみ世帯	夫婦と未婚の子のみの世帯	ひとり親と未婚の子のみの世帯	三世帯世帯(親、子、孫の同居世帯)	その他の世帯	無回答
20代	66人	4.5% (3人)	3.0% (2人)	60.6% (40人)	4.5% (3人)	13.6% (9人)	12.1% (8人)	1.5% (1人)
30代	121人	2.5% (3人)	6.6% (8人)	57.9% (70人)	7.4% (9人)	14.9% (18人)	10.7% (13人)	0.0% (0人)
40代	150人	6.0% (9人)	6.7% (10人)	50.0% (75人)	8.7% (13人)	16.7% (25人)	12.0% (18人)	0.0% (0人)
50代	174人	6.9% (12人)	16.7% (29人)	36.8% (64人)	12.1% (21人)	13.2% (23人)	13.2% (23人)	1.1% (2人)
60代	221人	10.4% (23人)	38.9% (86人)	28.1% (62人)	5.0% (11人)	8.1% (18人)	9.5% (21人)	0.0% (0人)
70代	172人	14.5% (25人)	45.9% (79人)	18.0% (31人)	2.3% (4人)	11.6% (20人)	5.2% (9人)	2.3% (4人)

(2) 住宅の形態

- ・住宅の形態は、「持家(一戸建て)」が76.3%でもっとも高く、次いで「賃貸のアパート、マンション等」が13.1%で比較的高いです。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は20代~40代で割合は高く、特に「30代」は33.1%を占めています。
- ・地域別では、「持家(一戸建て)」はすべての地域で70%以上となっており、「知念」が82.8%でもっとも高く、次に「大里」が77.5%、「玉城」が75.8%、「佐敷」が73.1%となっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は「玉城」が15.2%でもっとも高く、次に「大里」が14.2%、「佐敷」が12.7%、「知念」が6.1%となっています。

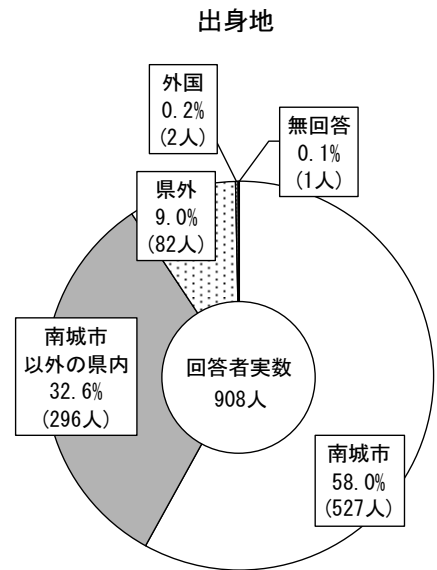


住宅の形態 (年代別・地域別)

	回答者 実数	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンショ ン等)	借家 (一戸建て)	賃貸のアパ ート、マン ション等	公営住宅 (団地等)	社宅、官 舎、公舎	その他	無回答
20代	66人	62.1% (41人)	0.0% (0人)	3.0% (2人)	28.8% (19人)	1.5% (1人)	1.5% (1人)	3.0% (2人)	0.0% (0人)
30代	121人	52.9% (64人)	1.7% (2人)	4.1% (5人)	33.1% (40人)	6.6% (8人)	1.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
40代	150人	69.3% (104人)	1.3% (2人)	4.0% (6人)	22.0% (33人)	2.7% (4人)	0.0% (0人)	0.7% (1人)	0.0% (0人)
50代	174人	78.2% (136人)	1.1% (2人)	2.9% (5人)	8.6% (15人)	5.2% (9人)	0.0% (0人)	3.4% (6人)	0.6% (1人)
60代	221人	86.4% (191人)	0.0% (0人)	3.6% (8人)	2.7% (6人)	5.9% (13人)	0.0% (0人)	1.4% (3人)	0.0% (0人)
70代	172人	90.1% (155人)	2.3% (4人)	0.0% (0人)	3.5% (6人)	1.7% (3人)	0.0% (0人)	1.2% (2人)	1.2% (2人)
大里	316人	77.5% (245人)	0.6% (2人)	2.8% (9人)	14.2% (45人)	3.2% (10人)	0.0% (0人)	1.3% (4人)	0.3% (1人)
玉城	223人	75.8% (169人)	1.3% (3人)	2.2% (5人)	15.2% (34人)	2.7% (6人)	0.0% (0人)	1.8% (4人)	0.9% (2人)
佐敷	268人	73.1% (196人)	1.5% (4人)	3.0% (8人)	12.7% (34人)	7.1% (19人)	0.7% (2人)	1.9% (5人)	0.0% (0人)
知念	99人	82.8% (82人)	1.0% (1人)	4.0% (4人)	6.1% (6人)	3.0% (3人)	1.0% (1人)	2.0% (2人)	0.0% (0人)

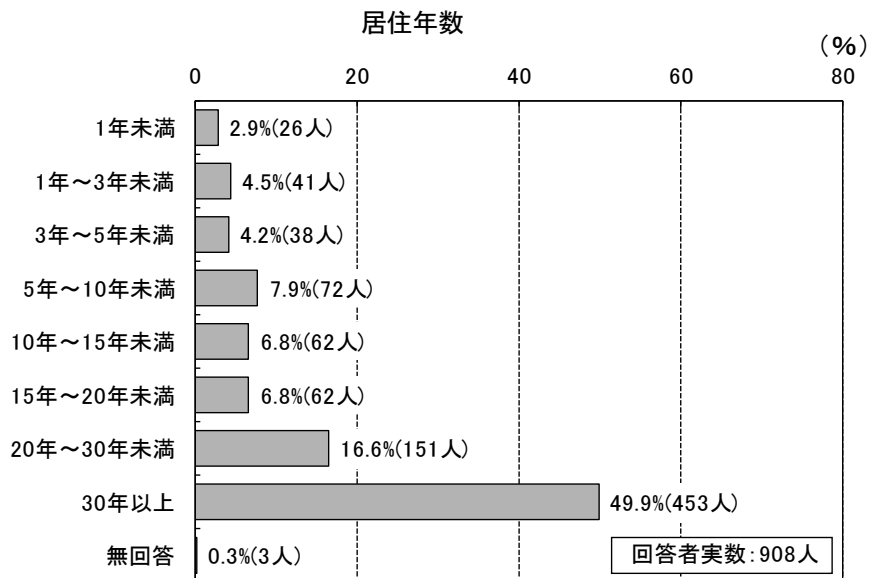
(3) 出身地

- ・市内出身者は58.0%です。
- ・「南城市以外の県内」が32.6%で、「県外」の9.0%、「外国」の0.2%を合わせると市外出身者が41.8%を占めます。



(4) 居住年数

- ・市内への居住年数は、「30年以上」が49.9%でもっとも高いです。
- ・80.1%は10年以上住んでいます。



- ・「30年以上」は年代が上がるとともに高くなる傾向にあります。30代～50代は20～40%台で、「60代」は65.6%、「70代」は80.2%となります。
- ・一方、「1年未満」「1～3年未満」は年代が高いほど割合は低くなります。
- ・地域別にみると、「30年以上」は、「佐敷」が56.0%で、次に「知念」が53.5%、「玉城」が47.5%、「大里」が45.6%となります。

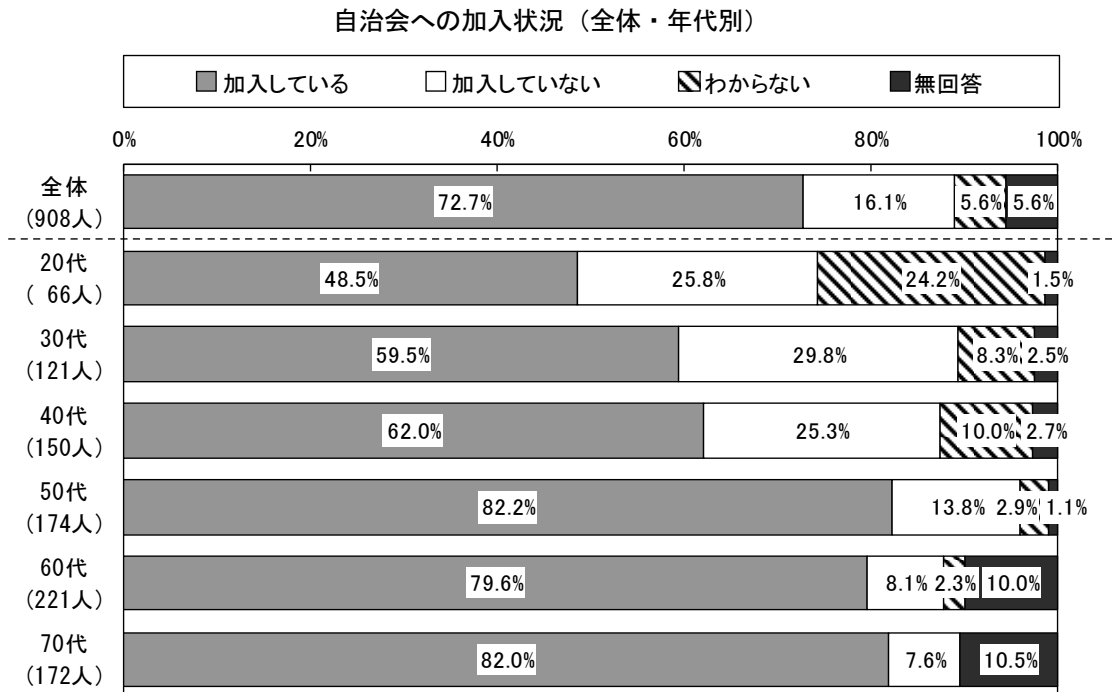
居住年数（年代別・地域別）

	回答者 実数	1年未満	1年～3 年未満	3年～5 年未満	5年～10 年未満	10年～15 年未満	15年～20 年未満	20年～30 年未満	30年以上	無回答
20代	66人	3.0% (2人)	13.6% (9人)	3.0% (2人)	4.5% (3人)	3.0% (2人)	10.6% (7人)	60.6% (40人)	1.5% (1人)	0.0% (0人)
30代	121人	5.0% (6人)	7.4% (9人)	8.3% (10人)	18.2% (22人)	9.9% (12人)	5.8% (7人)	19.0% (23人)	26.4% (32人)	0.0% (0人)
40代	150人	6.7% (10人)	4.0% (6人)	8.0% (12人)	14.0% (21人)	10.0% (15人)	8.7% (13人)	9.3% (14人)	38.7% (58人)	0.7% (1人)
50代	174人	2.9% (5人)	4.6% (8人)	4.6% (8人)	6.3% (11人)	9.2% (16人)	8.6% (15人)	19.0% (33人)	44.3% (77人)	0.6% (1人)
60代	221人	0.9% (2人)	3.2% (7人)	1.4% (3人)	4.1% (9人)	5.4% (12人)	6.8% (15人)	12.7% (28人)	65.6% (145人)	0.0% (0人)
70代	172人	0.6% (1人)	1.2% (2人)	1.7% (3人)	3.5% (6人)	2.9% (5人)	2.3% (4人)	7.6% (13人)	80.2% (138人)	0.0% (0人)
大里	316人	2.2% (7人)	5.7% (18人)	5.1% (16人)	9.2% (29人)	9.8% (31人)	6.0% (19人)	16.5% (52人)	45.6% (144人)	0.0% (0人)
玉城	223人	4.5% (10人)	4.0% (9人)	3.6% (8人)	7.6% (17人)	6.7% (15人)	7.6% (17人)	17.9% (40人)	47.5% (106人)	0.4% (1人)
佐敷	268人	1.9% (5人)	3.0% (8人)	4.5% (12人)	6.7% (18人)	4.1% (11人)	6.3% (17人)	17.2% (46人)	56.0% (150人)	0.4% (1人)
知念	99人	3.0% (3人)	6.1% (6人)	2.0% (2人)	8.1% (8人)	5.1% (5人)	9.1% (9人)	13.1% (13人)	53.5% (53人)	0.0% (0人)

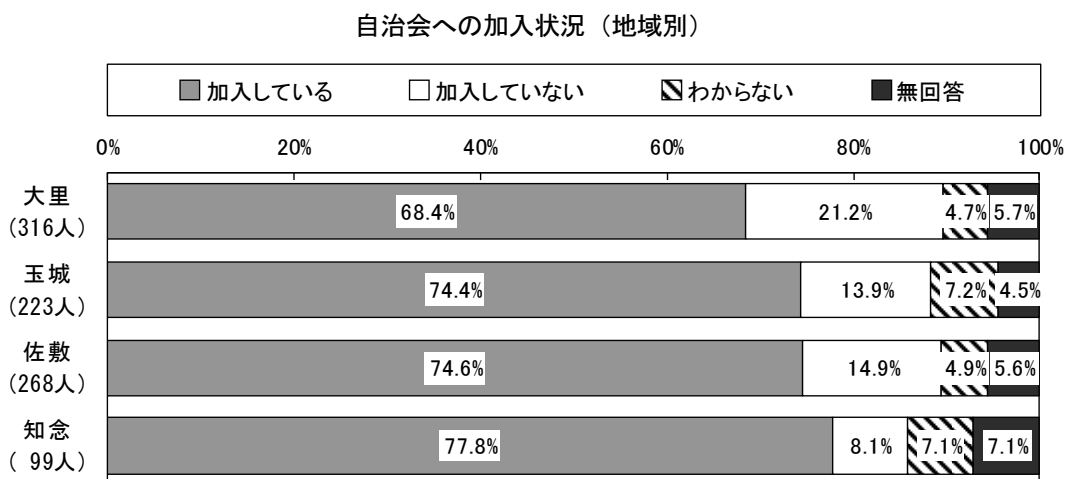


(5) 自治会への加入状況

- ・自治会への加入については、「加入している」が72.7%あります。
- ・年代別にみると、「加入している」は年代があがると割合も高くなり、「20代」が48.5%であるのに対し、50代以上では概ね80%台となります。

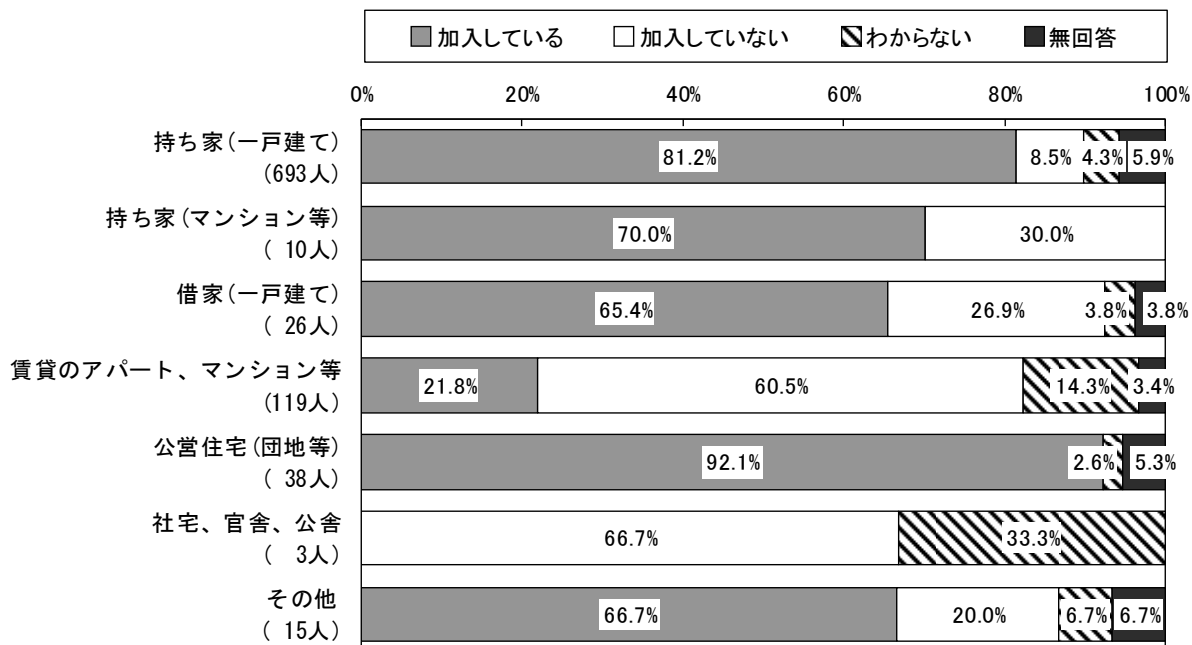


- ・地域別にみると、「加入している」は「知念」が77.8%でもっとも高く、「佐敷」が74.6%、「玉城」が74.4%となっています。「大里」は68.4%でもっとも低くなっています。



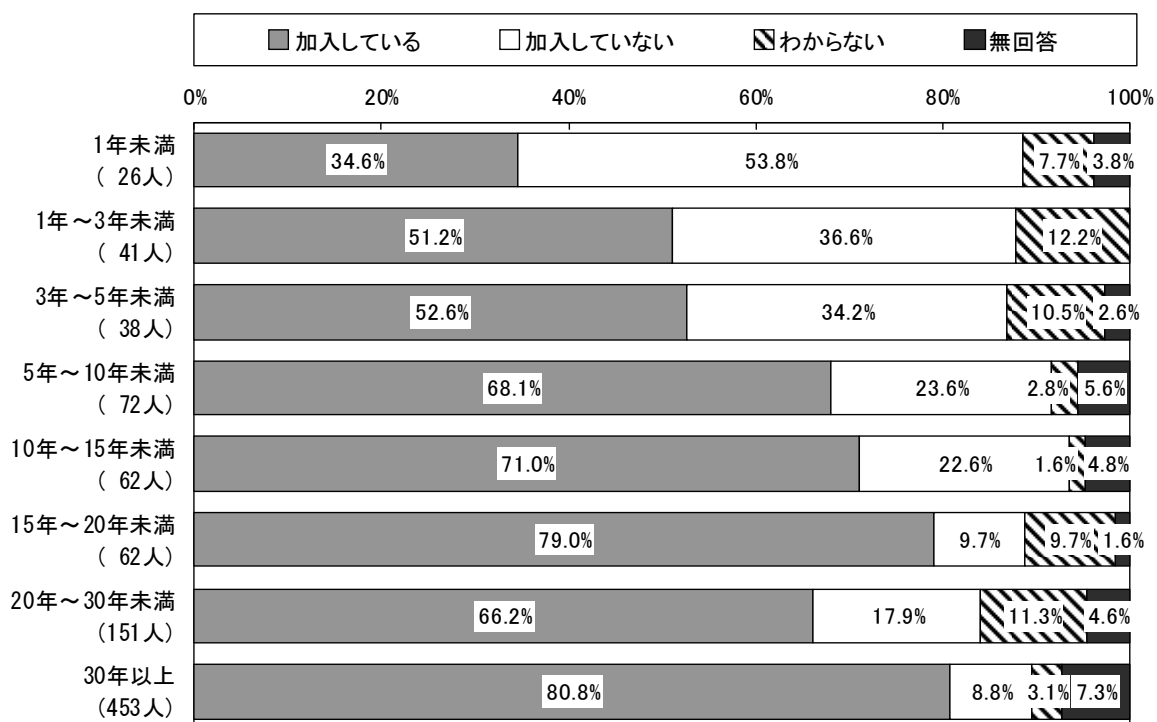
- ・住宅の形態別にみると、「加入している」は「公営住宅(団地等)」が 92.1%、「持ち家(一戸建て)」が 81.2%で高くなっています。反対に、「賃貸のアパート、マンション等」では加入率は 21.8%であり、もっとも低くなっています。

自治会への加入状況（住宅の形態別）



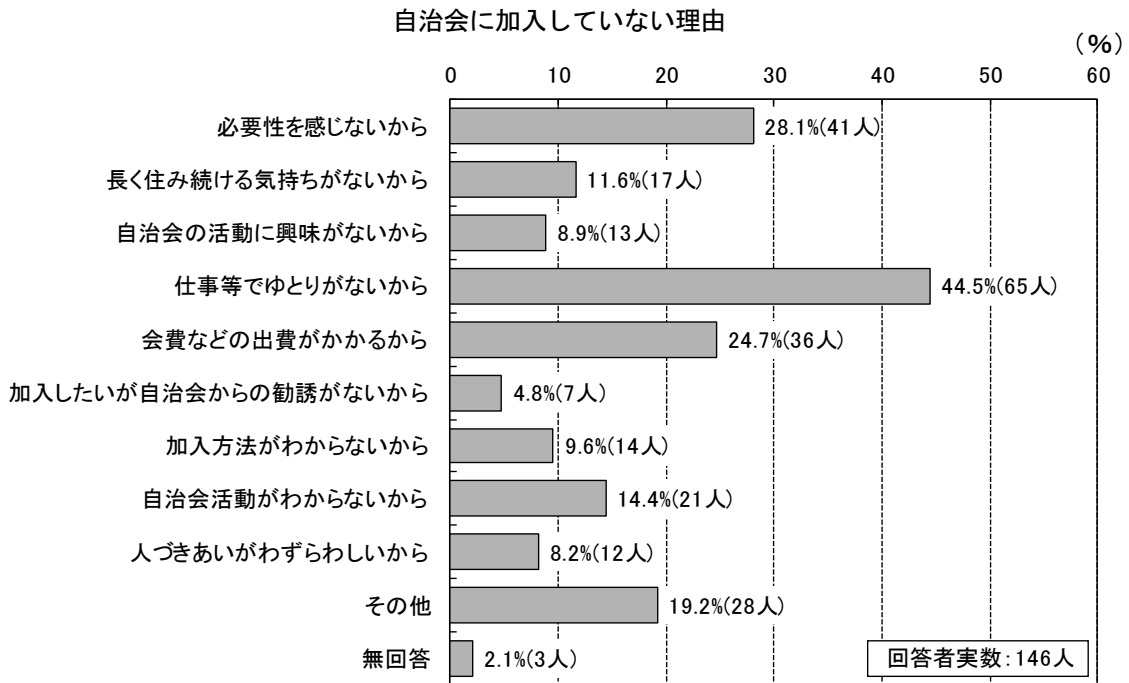
- ・居住年数別にみると、「加入している」は居住年数が長くなるほど加入率が上がり、居住年数5年未満が50%台以下で低く、「30年以上」では80.8%となります。

自治会への加入状況（居住年数別）



(6) 自治会に加入していない理由

- ・自治会に「加入していない」理由は、「仕事等でゆとりがないから」が 44.5%で、家族構成でみると、「三世帯世帯(親、子、孫の同居世帯)」がもっとも高く 70.0%、「夫婦のみ世帯」が 56.0%あります。
- ・そのほか、「必要性を感じないから」が 28.1%、「会費などの出費がかかるから」が 24.7%となっています。



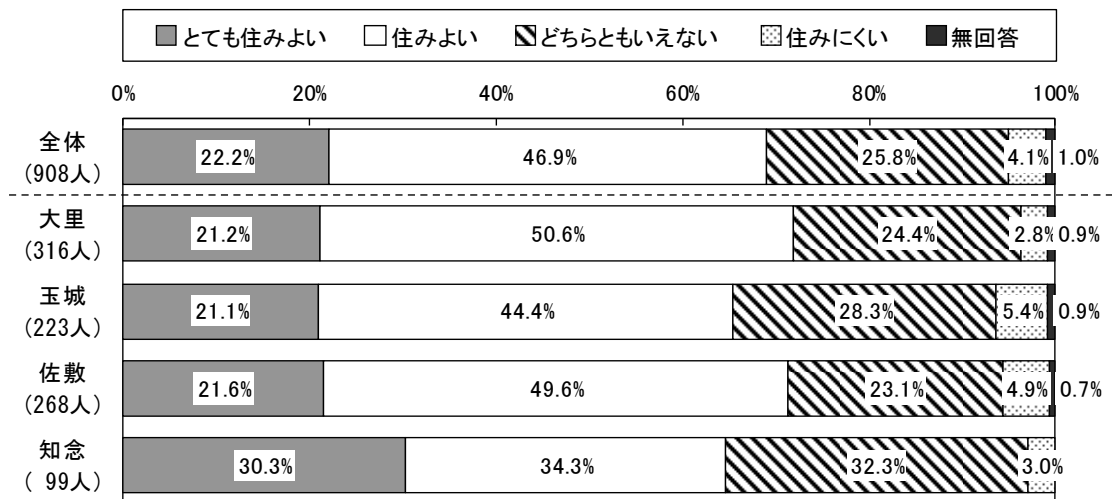
自治会に加入していない理由 (家族構成別)

家族構成	回答者実数	必要性を感じないから	長く住み続ける気持ちがないから	自治会の活動に興味がないから	仕事等でゆとりがないから	会費などの出費がかかるから	加入したいが自治会からの勧誘がないから	加入方法がわからないから	自治会活動がわからないから	人づきあいがわずらわしいから	その他	無回答
ひとり暮らし	23人	39.1% (9人)	13.0% (3人)	4.3% (1人)	34.8% (8人)	30.4% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.3% (1人)	13.0% (3人)	30.4% (7人)	0.0% (0人)
夫婦のみ世帯	25人	32.0% (8人)	16.0% (4人)	12.0% (3人)	56.0% (14人)	28.0% (7人)	8.0% (2人)	8.0% (2人)	24.0% (6人)	8.0% (2人)	12.0% (3人)	0.0% (0人)
夫婦と未婚の子のみの世帯	65人	27.7% (18人)	9.2% (6人)	9.2% (6人)	43.1% (28人)	26.2% (17人)	6.2% (4人)	12.3% (8人)	12.3% (8人)	7.7% (5人)	20.0% (13人)	3.1% (2人)
ひとり親と未婚の子のみの世帯	9人	22.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (3人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	11.1% (1人)	22.2% (2人)	0.0% (0人)
三世帯世帯(親、子、孫の同居世帯)	10人	10.0% (1人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	70.0% (7人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)
その他の世帯	14人	21.4% (3人)	21.4% (3人)	7.1% (1人)	35.7% (5人)	21.4% (3人)	7.1% (1人)	14.3% (2人)	28.6% (4人)	7.1% (1人)	7.1% (1人)	7.1% (1人)

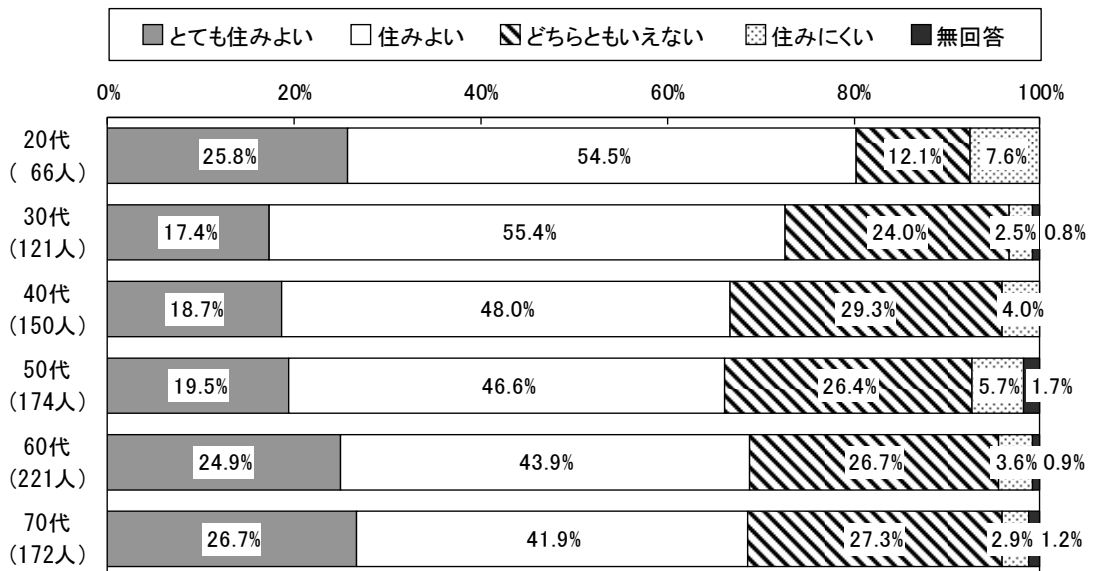
(7) 住みごこち

- ・市の住みごこちは、「住みよい」が46.9%ともっとも多く、次いで「とても住みよい」が22.2%で「住みよい」と「とても住みよい」を合わせると69.1%となります。「どちらともいえない」は25.8%、「住みにくい」は4.1%となっています。
- ・「とても住みよい」、「住みよい」と答えた方はすべての地域で60%以上となっております。
- ・年代別にみると、「住みよい」と「とても住みよい」がとても多いのは「20代」で80.3%、「30代」でも72.8%と高くなっており、そのほかの年代でも60%台後半となっております。

住みごこち（全体・地域別）



住みごこち（年代別）



(8) 南城市の生活環境

・南城市の生活環境について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた“思う”がもっとも多いのは、「犯罪が少ないなど治安がよく、安心して生活できる」で71.6%、次いで「就学前から小学生の子どもにとって、安心・安全で、健全に育つ環境である」が62.3%となっています。「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“思わない”がもっとも多いのは、「道路環境や交通の便がよい」が30.7%となっています。

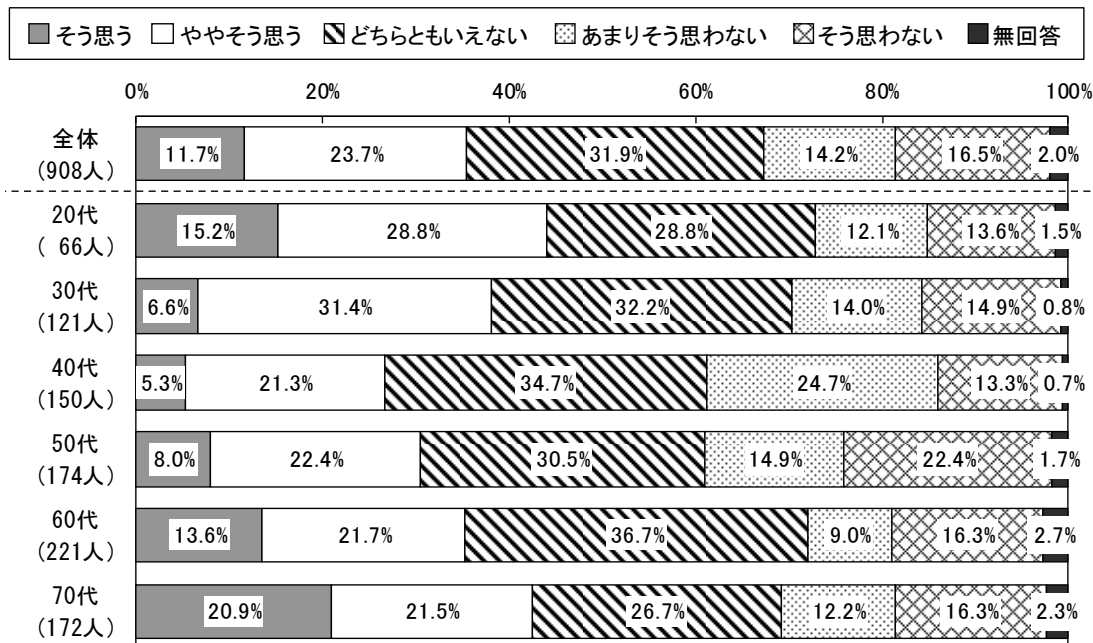
南城市の生活環境（まとめ）

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	思う	思わない
①就学前から小学生の子どもにとって、安心・安全で、健全に育つ環境である	26.5% (241人)	35.8% (325人)	24.1% (219人)	6.4% (58人)	2.5% (23人)	4.6% (42人)	62.3% (566人)	8.9% (81人)
②青少年(中学・高校生くらい)にとって、安心・安全で、健全に育つ環境である	24.2% (220人)	35.7% (324人)	28.4% (258人)	6.1% (55人)	1.4% (13人)	4.2% (38人)	59.9% (544人)	7.5% (68人)
③子育て中の保護者が、安心・安全に妊娠・出産・子育てをしながら暮らせる環境である	21.4% (194人)	34.1% (310人)	28.7% (261人)	7.0% (64人)	2.6% (24人)	6.1% (55人)	55.5% (504人)	9.7% (88人)
④障がいのある方が、自分の希望や自分のペースにそって、安心・安全に暮らせる環境である	11.3% (103人)	20.8% (189人)	50.9% (462人)	5.8% (53人)	2.5% (23人)	8.6% (78人)	32.2% (292人)	8.4% (76人)
⑤高齢者が、自分の希望や自分のペースにそって、安心・安全に暮らせる環境である	17.0% (154人)	33.6% (305人)	36.5% (331人)	5.7% (52人)	3.0% (27人)	4.3% (39人)	50.6% (459人)	8.7% (79人)
⑥買い物や銀行等、郵便局といった日常生活の用事を済ますのに不便がない	24.0% (218人)	24.8% (225人)	25.3% (230人)	11.8% (107人)	11.9% (108人)	2.2% (20人)	48.8% (443人)	23.7% (215人)
⑦困りごとの相談先や福祉や行政のサービスについての情報がきちんと届いている	14.2% (129人)	26.1% (237人)	44.1% (400人)	5.5% (50人)	4.8% (44人)	5.3% (48人)	40.3% (366人)	10.4% (94人)
⑧役所や社会福祉協議会などの公共施設に行きやすい	17.2% (156人)	25.7% (233人)	35.2% (320人)	8.8% (80人)	9.1% (83人)	4.0% (36人)	42.8% (389人)	18.0% (163人)
⑨地震や台風などの災害があった時の避難や防災対策などの情報が十分に伝わっている	12.6% (114人)	26.9% (244人)	42.2% (383人)	8.3% (75人)	6.3% (57人)	3.9% (35人)	39.4% (358人)	14.5% (132人)
⑩病院や福祉施設・サービス事業所など、医療・福祉機関が整っている	9.7% (88人)	22.8% (207人)	42.6% (387人)	12.4% (113人)	8.9% (81人)	3.5% (32人)	32.5% (295人)	21.4% (194人)
⑪犯罪が少ないなど治安がよく、安心して生活できる	26.8% (243人)	44.8% (407人)	23.3% (212人)	1.9% (17人)	0.8% (7人)	2.4% (22人)	71.6% (650人)	2.6% (24人)
⑫地域のつながりがあり、地域活動が充実している	17.8% (162人)	37.7% (342人)	34.5% (313人)	4.3% (39人)	2.4% (22人)	3.3% (30人)	55.5% (504人)	6.7% (61人)
⑬道路環境や交通の便がよい	11.7% (106人)	23.7% (215人)	31.9% (290人)	14.2% (129人)	16.5% (150人)	2.0% (18人)	35.4% (321人)	30.7% (279人)

※回答者実数 908人

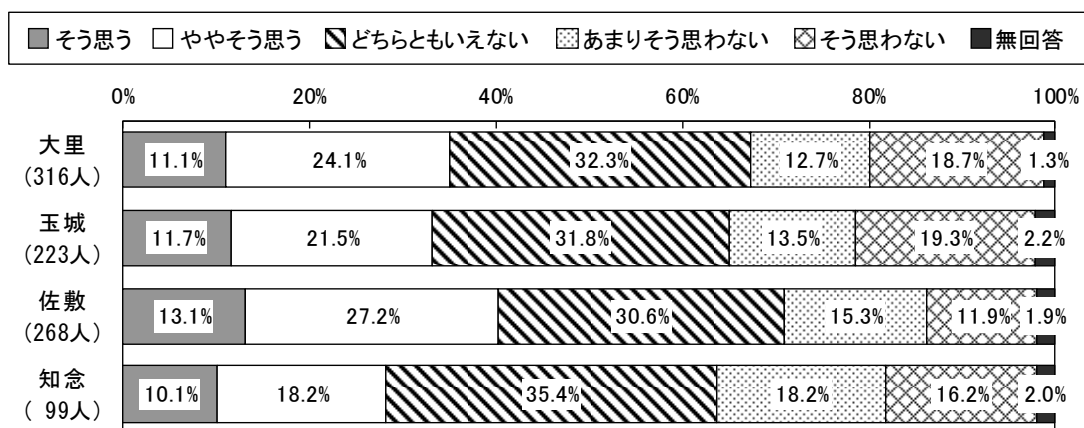
- 年代別にみると、「道路環境や交通の便がよい」の“思う”は、「20代」、「70代」では40%台で、そのほかの年代では30%台以下、「40代」では26.6%ともっとも低くなっており、「思わない」は、「40代」、「50代」では30%台後半と高くなっており、

⑬道路環境や交通の便がよい（全体・年代別）



- 地域別にみると、「道路環境や交通の便がよい」の“思う”は、「佐敷」がもっとも多く、40.3%あります。“思わない”は「知念」が34.4%でもっとも高いです。

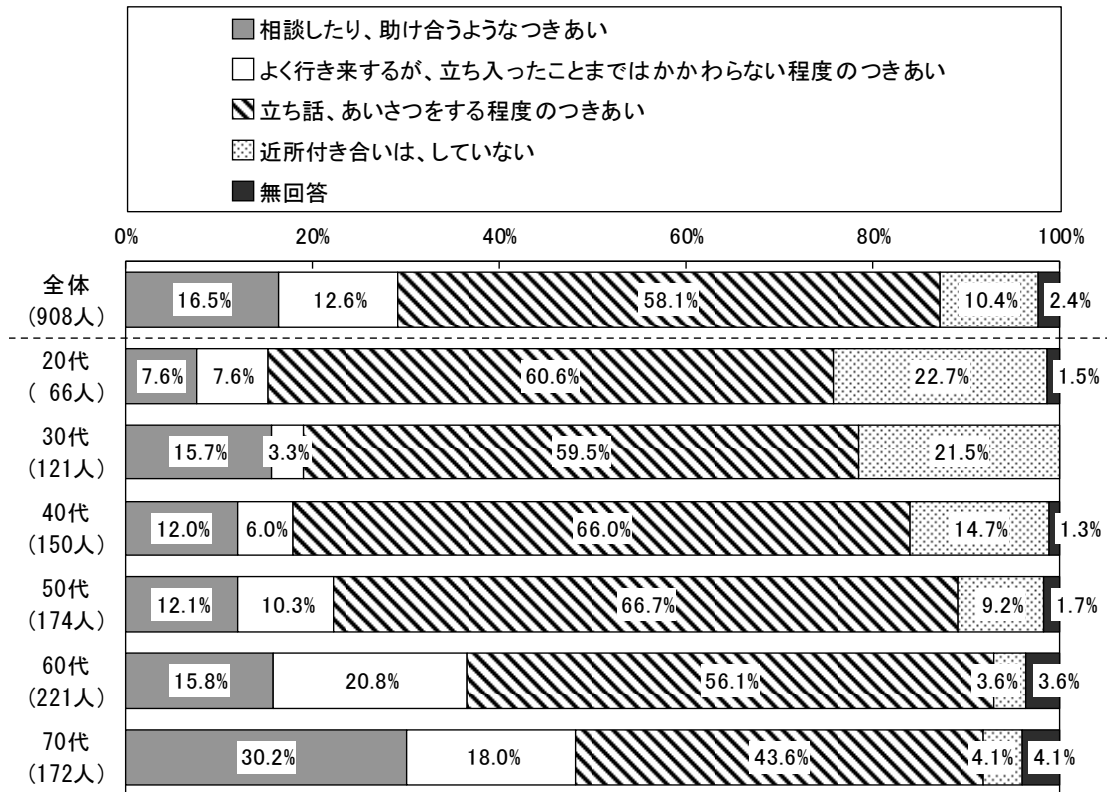
⑬道路環境や交通の便がよい（地域別）



(9) 現在の隣近所とのつきあいの状況

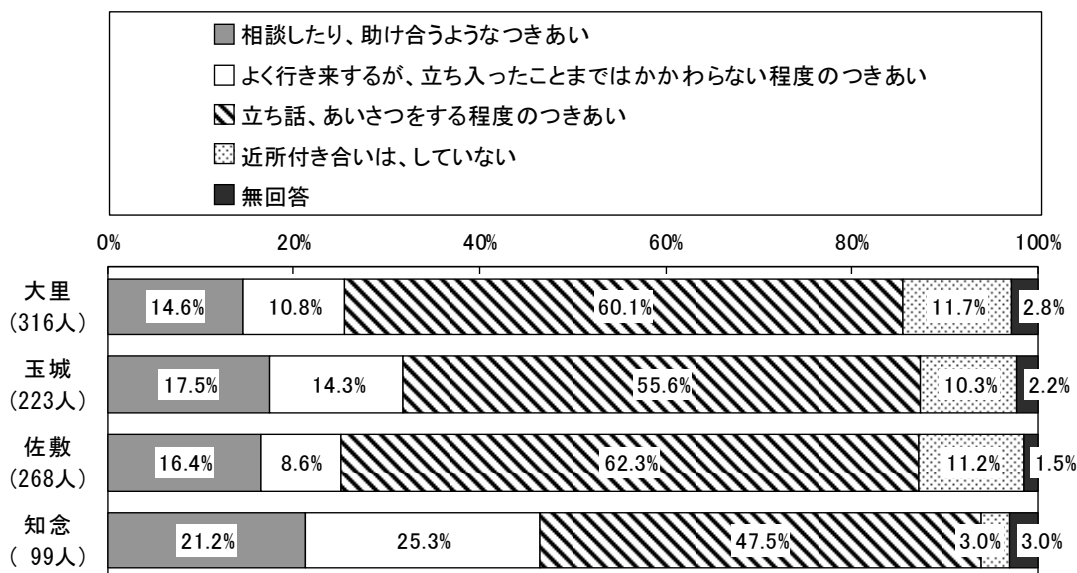
- ・隣近所とのつきあいの状況は、「立ち話、あいさつをする程度のつきあい」が 58.1%、次いで「相談したり、助け合うようなつきあい」が 16.5%、次いで「相談したり、助け合うようなつきあい」が 16.5%となっています。
- ・「近所付き合いは、していない」は 10.4%となっています。
- ・年代別にみると、「立ち話、あいさつをする程度のつきあい」は、「50代」が 66.7%、「40代」が 66.0%、「20代」が 60.6%で高くなっていますが、60代以上の割合は低くなります。
- ・「近所付き合いは、していない」は、年代があがるとともに低くなっており、「20代」が 22.7%、「30代」が 21.5%で高く、それ以外の年代では割合は低く、10%台以下になります。

現在の隣近所とのつきあいの状況（全体・年代別）



- ・地域別にみると、「立ち話、あいさつをする程度のつきあい」は、「佐敷」、「大里」、「玉城」が半数以上となっており、「知念」は47.5%と他地域より低くなっております。

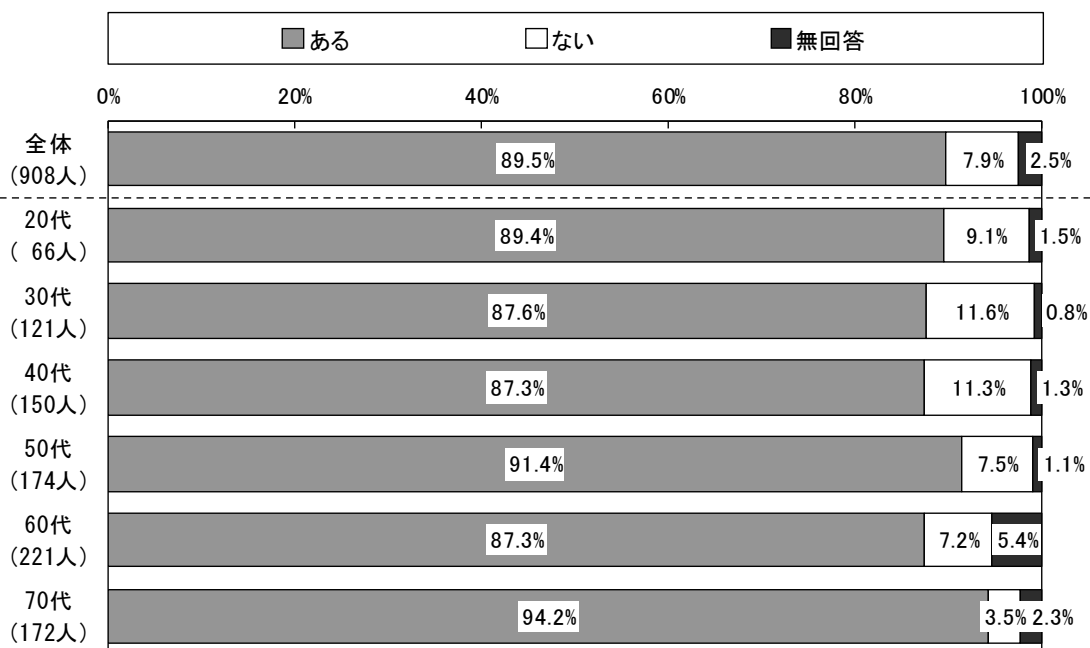
現在の隣近所とのつきあいの状況（地域別）



(10) 孤立

- ・人とふれあう機会が「ない」割合は7.9%あります。
- ・年代別にみると、「30代」が11.6%、「40代」が11.3%と高く、「70代」は3.5%ともっとも低くなり、若い世代の方が高いです。

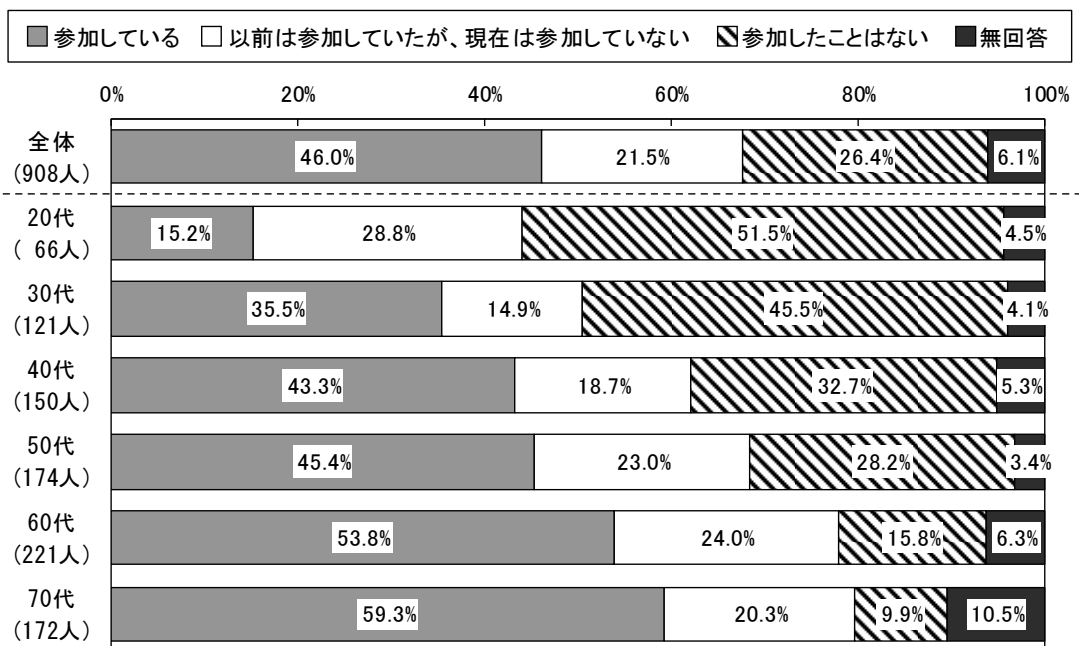
人とふれあう機会（全体・年代別）



(11) 地域活動・行事への参加状況

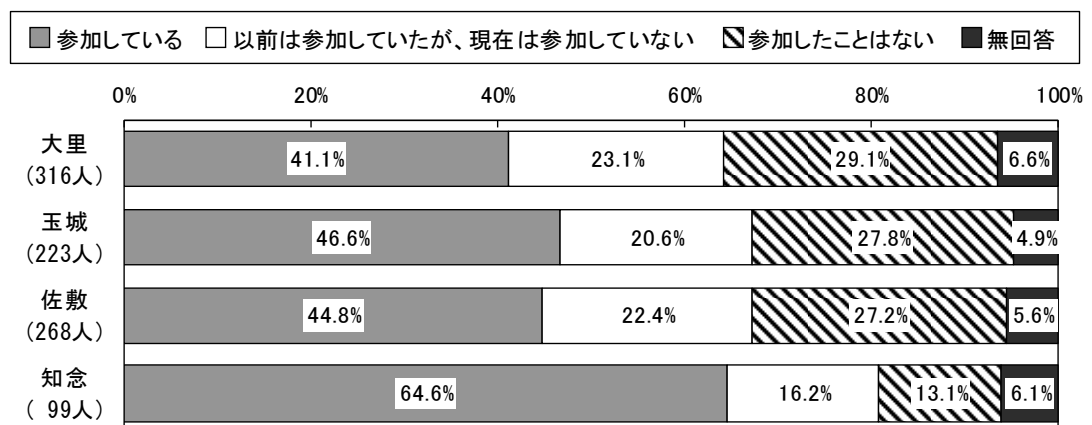
- ・地域活動への参加については、「参加したことはない」が26.4%、「以前は参加していたが、現在は参加していない」が21.5%で合わせると47.9%となります。「参加している」が46.0%となっています。
- ・年代別にみると、「参加したことはない」と「以前は参加していたが、現在は参加していない」を合わせた“参加していない”割合は年代があがるとともに割合は低くなっており、「20代」が80.3%に対し、「70代」では30.2%となっています。
- ・「参加している」は、年代があがるとともに割合も高くなっており、「20代」の15.2%に対し、「70代」では59.3%となります。

地域活動・行事への参加状況（全体・年代別）



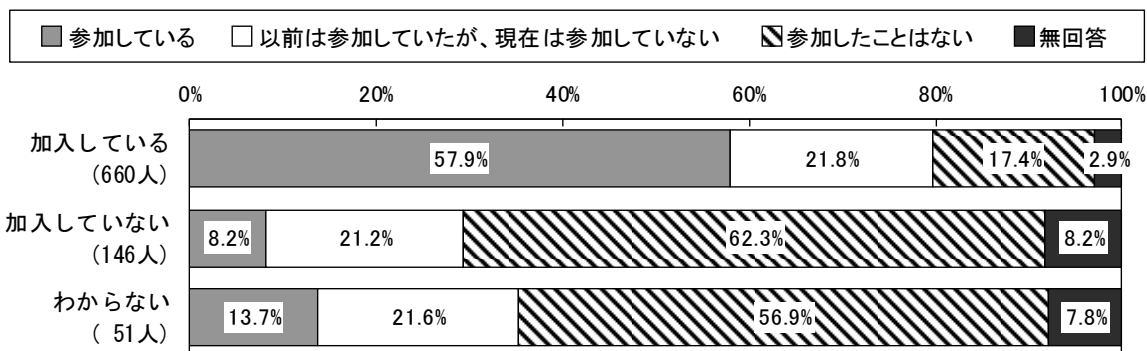
- ・地域別にみると、「参加している」は「知念」が64.6%を占め、その他の地域は40%台となっています。

地域活動・行事への参加状況（地域別）



- ・自治会の加入の状況別にみると、「参加している」は「加入している」が 57.9%、「加入していない」が 8.2%となっています。加入者の割合が、未加入者の割合を大きく上回っています。

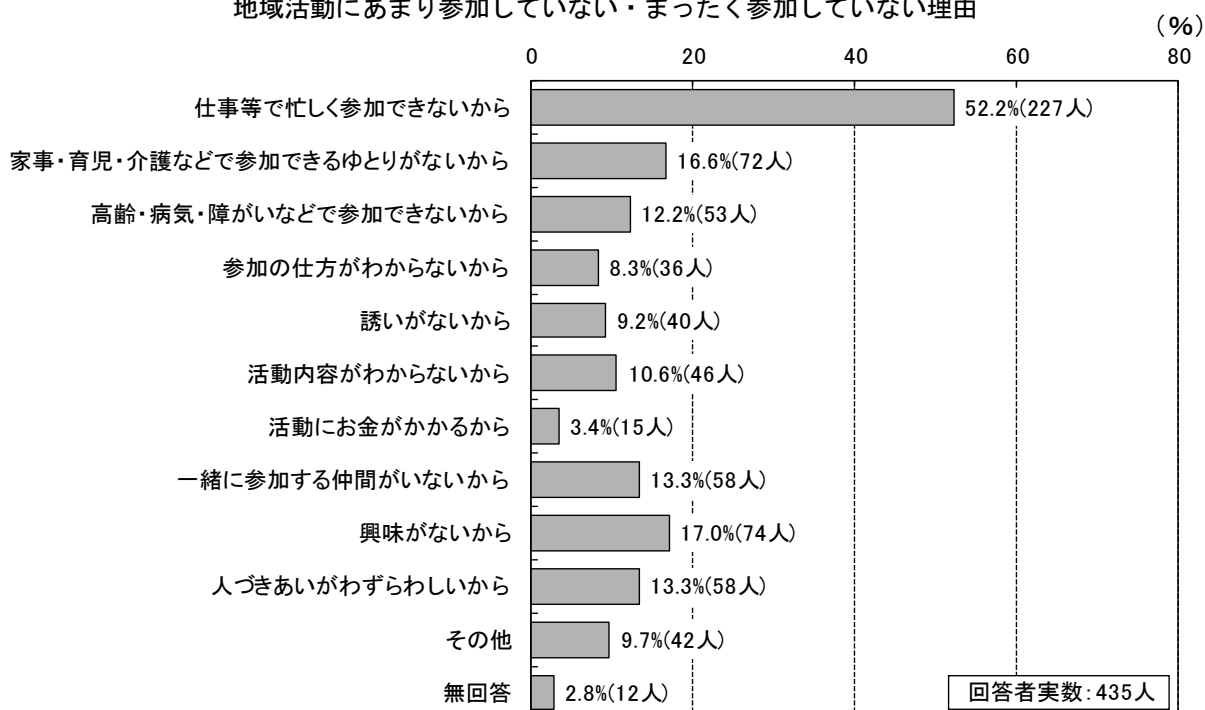
地域活動・行事への参加状況（自治会の加入の状況別）



(12) 地域活動にあまり参加していない・まったく参加していない理由（複数回答）

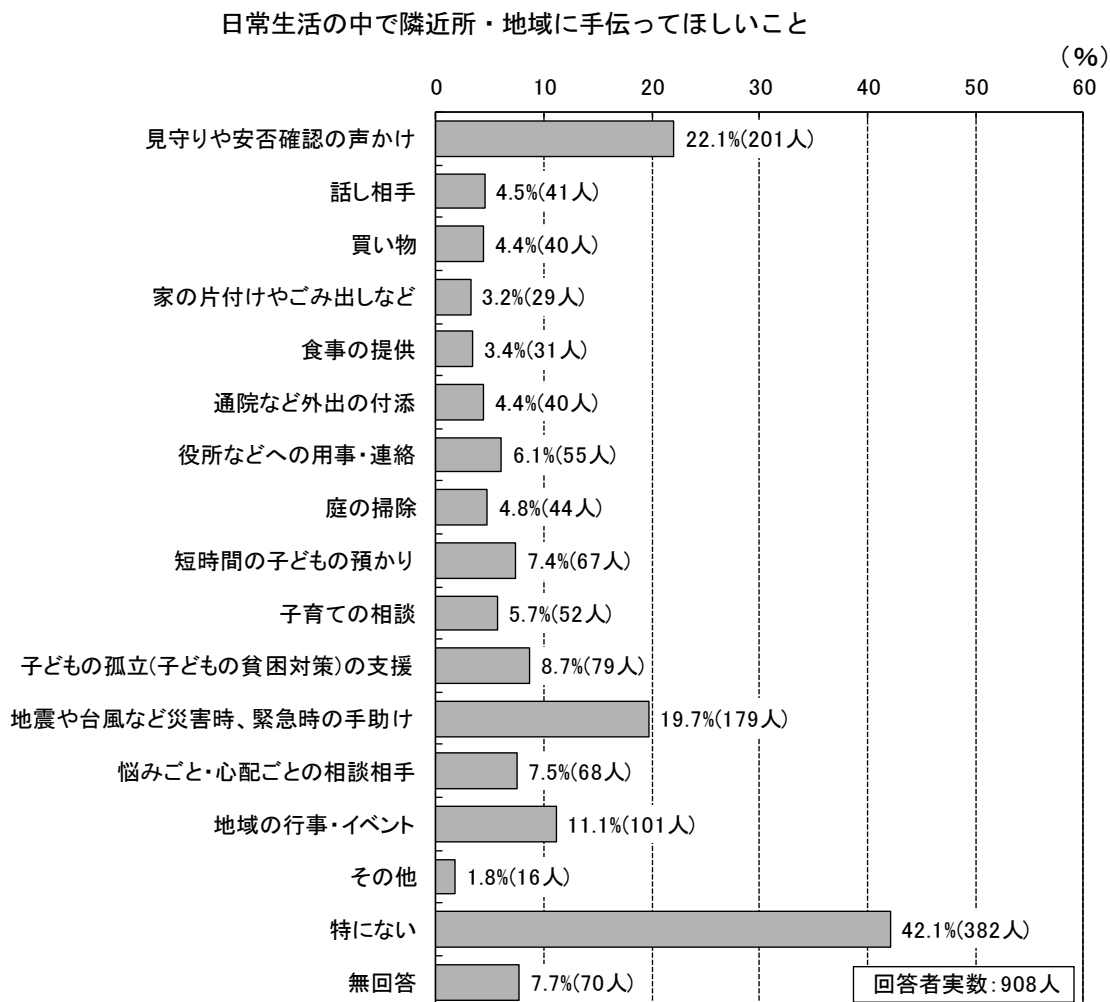
- ・地域活動に参加していない理由としては、「仕事等で忙しく参加できないから」が 52.2%、「興味がないから」が 17.0%、「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」が 16.6%と高くなっています。

地域活動にあまり参加していない・まったく参加していない理由



(13) 日常生活の中で隣近所・地域に手伝ってほしいこと（複数回答）

- ・隣近所・地域の方に日常生活の中で手伝ってほしいことについては、「特にない」が 42.1%を占めています。
- ・具体的に手伝ってほしいこととしては、「見守りや安否確認の声かけ」22.1%、「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」が 19.7%で、この2つの手伝いを希望する声が高いです。



- ・同居家族別にみると「見守りや安否確認の声かけ」は、「児童(小学生)」、「乳児(1歳未満)」が 40%台、「乳児を除く小学校入学前の幼児」が 30%台となっており、「介護を必要とする方」や「65歳～74歳の方」、「75歳以上の方」の 20%台と比べて高くなっています。「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」は「介護を必要とする方」と「乳児(1歳未満)」が 20%台後半となっております。

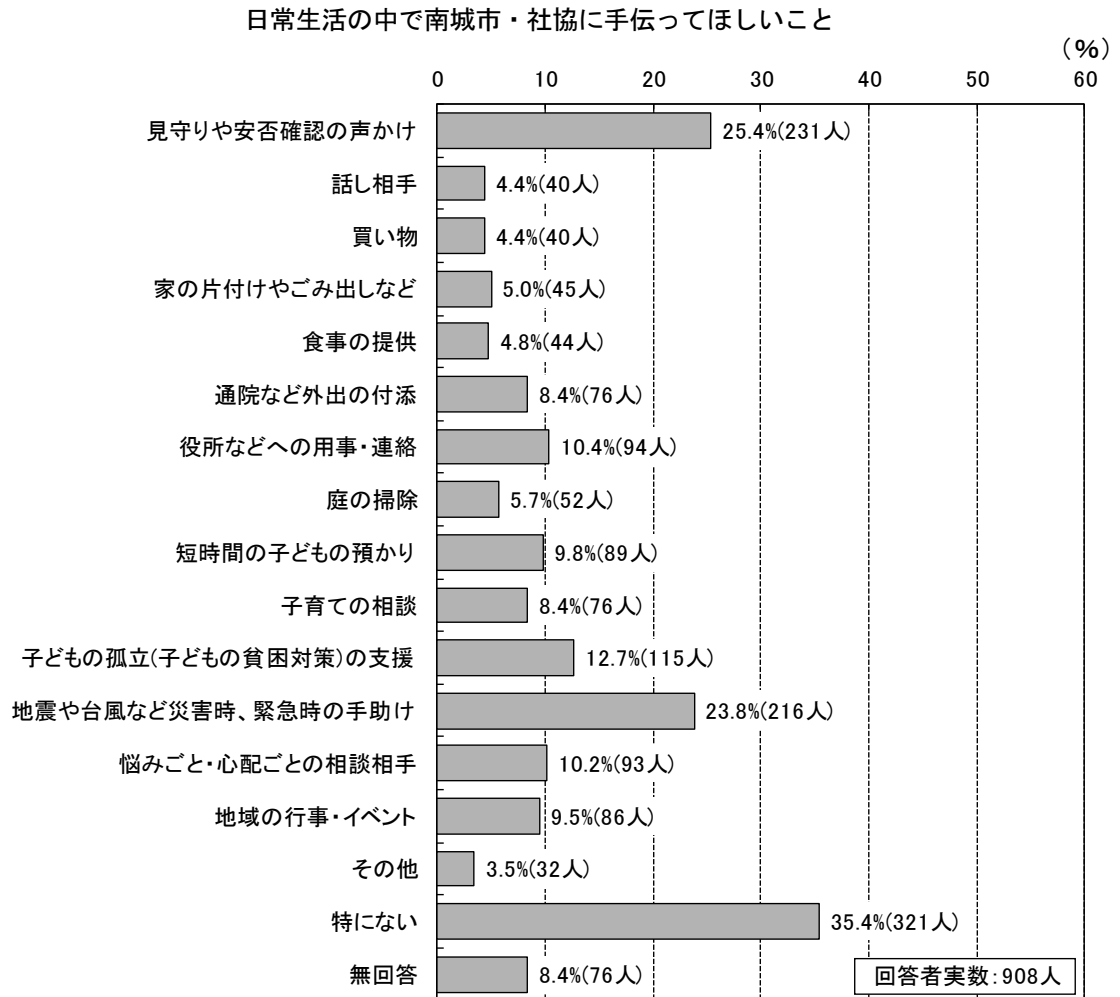
日常生活の中で隣近所・地域に手伝ってほしいこと（同居家族別）

	回答者実数	見守りや安否確認の声かけ	話し相手	買い物	家の片付けやごみ出しなど	食事の提供	通院など外出の付添	役所などへの用事・連絡	庭の掃除	短時間の子ども預かり
乳児（1歳未満）	30人	40.0% （12人）	3.3% （1人）	3.3% （1人）	3.3% （1人）	0.0% （0人）	0.0% （0人）	0.0% （0人）	6.7% （2人）	23.3% （7人）
乳児を除く小学校入学前の幼児	120人	34.2% （41人）	3.3% （4人）	5.8% （7人）	3.3% （4人）	4.2% （5人）	1.7% （2人）	4.2% （5人）	4.2% （5人）	21.7% （26人）
65歳～74歳の方	206人	23.8% （49人）	4.9% （10人）	5.3% （11人）	1.9% （4人）	1.9% （4人）	2.4% （5人）	5.3% （11人）	3.9% （8人）	3.4% （7人）
75歳以上の方	184人	25.0% （46人）	6.0% （11人）	2.2% （4人）	3.3% （6人）	4.9% （9人）	5.4% （10人）	9.8% （18人）	6.0% （11人）	2.7% （5人）
介護を必要とする方	55人	23.6% （13人）	1.8% （1人）	1.8% （1人）	1.8% （1人）	9.1% （5人）	9.1% （5人）	10.9% （6人）	5.5% （3人）	5.5% （3人）
障がいのある方	79人	19.0% （15人）	7.6% （6人）	7.6% （6人）	2.5% （2人）	11.4% （9人）	3.8% （3人）	12.7% （10人）	6.3% （5人）	6.3% （5人）
児童（小学生）	126人	41.3% （52人）	4.0% （5人）	4.0% （5人）	2.4% （3人）	4.8% （6人）	4.0% （5人）	4.0% （5人）	4.0% （5人）	15.9% （20人）
生徒（中・高校生）	136人	23.5% （32人）	3.7% （5人）	5.1% （7人）	2.2% （3人）	3.7% （5人）	7.4% （10人）	5.1% （7人）	3.7% （5人）	9.6% （13人）
学生（専門学校・大学生等）	84人	20.2% （17人）	3.6% （3人）	4.8% （4人）	2.4% （2人）	2.4% （2人）	4.8% （4人）	10.7% （9人）	0.0% （0人）	15.5% （13人）
いずれもない	216人	15.3% （33人）	4.2% （9人）	4.2% （9人）	5.1% （11人）	2.3% （5人）	5.1% （11人）	5.1% （11人）	6.0% （13人）	4.2% （9人）

	回答者実数	子育ての相談	子どもの孤立（子どもへの貧困対策の支援）	地震や台風など災害時、緊急時の手助け	悩みごと・心配ごとの相談相手	地域の行事・イベント	その他	特になし	無回答
乳児（1歳未満）	30人	26.7% （8人）	3.3% （1人）	26.7% （8人）	10.0% （3人）	26.7% （8人）	0.0% （0人）	30.0% （9人）	3.3% （1人）
乳児を除く小学校入学前の幼児	120人	18.3% （22人）	21.7% （26人）	16.7% （20人）	8.3% （10人）	18.3% （22人）	2.5% （3人）	27.5% （33人）	1.7% （2人）
65歳～74歳の方	206人	2.4% （5人）	5.8% （12人）	20.4% （42人）	7.3% （15人）	11.2% （23人）	1.5% （3人）	44.2% （91人）	10.7% （22人）
75歳以上の方	184人	1.6% （3人）	6.5% （12人）	19.6% （36人）	10.3% （19人）	11.4% （21人）	2.2% （4人）	39.7% （73人）	9.2% （17人）
介護を必要とする方	55人	3.6% （2人）	10.9% （6人）	27.3% （15人）	10.9% （6人）	16.4% （9人）	5.5% （3人）	25.5% （14人）	5.5% （3人）
障がいのある方	79人	8.9% （7人）	10.1% （8人）	25.3% （20人）	17.7% （14人）	15.2% （12人）	3.8% （3人）	29.1% （23人）	8.9% （7人）
児童（小学生）	126人	13.5% （17人）	18.3% （23人）	23.0% （29人）	10.3% （13人）	18.3% （23人）	3.2% （4人）	23.8% （30人）	4.8% （6人）
生徒（中・高校生）	136人	10.3% （14人）	19.1% （26人）	22.8% （31人）	7.4% （10人）	14.7% （20人）	3.7% （5人）	37.5% （51人）	4.4% （6人）
学生（専門学校・大学生等）	84人	13.1% （11人）	13.1% （11人）	25.0% （21人）	4.8% （4人）	14.3% （12人）	1.2% （1人）	41.7% （35人）	4.8% （4人）
いずれもない	216人	0.9% （2人）	4.6% （10人）	17.6% （38人）	4.6% （10人）	6.5% （14人）	0.9% （2人）	58.3% （126人）	4.6% （10人）

(14) 日常生活の中で南城市・社協に手伝ってほしいこと（複数回答）

- ・南城市・社協に日常生活の中で手伝ってほしいことについては、「特にない」が 35.4%を占めています。
- ・具体的に手伝ってほしいこととしては、「見守りや安否確認の声かけ」25.4%、「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」が 23.8%で、この2つの手伝いを希望する声が高いです。



- ・同居家族別にみると「見守りや安否確認の声かけ」は、「乳児を除く小学校入学前の幼児」、「乳児(1歳未満)」が 40%台、「児童(小学生)」が 30%台で高くなっています。「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」は「学生(専門学校・大学生等)」と「生徒(中・高校生)」が 30%台となっております。

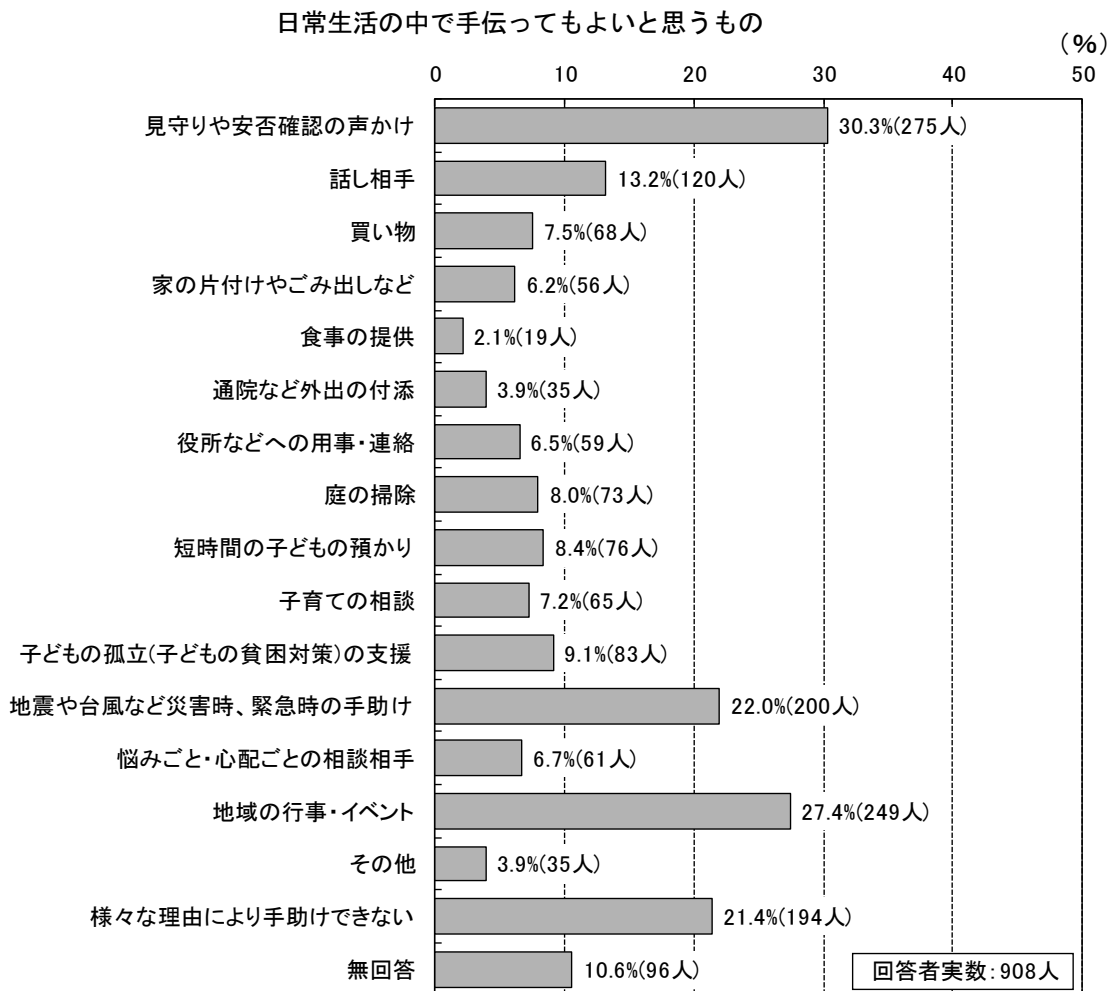
日常生活の中で南城市・社協に手伝ってほしいこと（同居家族別）

	回答者実数	見守りや安否確認の声かけ	話し相手	買い物	家の片付けやごみ出しなど	食事の提供	通院など外出の付添	役所などへの用事・連絡	庭の掃除	短時間の子ども預かり
乳児（1歳未満）	30人	40.0% （12人）	6.7% （2人）	3.3% （1人）	3.3% （1人）	3.3% （1人）	3.3% （1人）	13.3% （4人）	10.0% （3人）	30.0% （9人）
乳児を除く小学校入学前の幼児	120人	42.5% （51人）	5.0% （6人）	5.0% （6人）	3.3% （4人）	3.3% （4人）	7.5% （9人）	10.0% （12人）	5.0% （6人）	28.3% （34人）
65歳～74歳の方	206人	26.7% （55人）	2.9% （6人）	4.4% （9人）	5.3% （11人）	4.9% （10人）	7.3% （15人）	8.3% （17人）	4.9% （10人）	4.9% （10人）
75歳以上の方	184人	27.7% （51人）	5.4% （10人）	4.9% （9人）	4.9% （9人）	6.5% （12人）	12.5% （23人）	12.5% （23人）	7.6% （14人）	4.3% （8人）
介護を必要とする方	55人	27.3% （15人）	1.8% （1人）	1.8% （1人）	1.8% （1人）	9.1% （5人）	12.7% （7人）	10.9% （6人）	3.6% （2人）	3.6% （2人）
障がいのある方	79人	25.3% （20人）	7.6% （6人）	5.1% （4人）	6.3% （5人）	6.3% （5人）	11.4% （9人）	13.9% （11人）	5.1% （4人）	8.9% （7人）
児童（小学生）	126人	39.7% （50人）	5.6% （7人）	4.0% （5人）	5.6% （7人）	3.2% （4人）	5.6% （7人）	12.7% （16人）	6.3% （8人）	19.0% （24人）
生徒（中・高校生）	136人	27.9% （38人）	5.9% （8人）	4.4% （6人）	4.4% （6人）	4.4% （6人）	6.6% （9人）	16.2% （22人）	3.7% （5人）	12.5% （17人）
学生（専門学校・大学生等）	84人	22.6% （19人）	3.6% （3人）	7.1% （6人）	4.8% （4人）	6.0% （5人）	8.3% （7人）	10.7% （9人）	3.6% （3人）	17.9% （15人）
いずれもない	216人	16.7% （36人）	3.2% （7人）	3.2% （7人）	4.2% （9人）	3.7% （8人）	6.5% （14人）	6.5% （14人）	6.5% （14人）	4.6% （10人）

	回答者実数	子育ての相談	子どもの孤立（子どもへの貧困対策の支援）	地震や台風など災害時、緊急時の手助け	悩みごと・心配ごとの相談相手	地域の行事・イベント	その他	特になし	無回答
乳児（1歳未満）	30人	16.7% （5人）	6.7% （2人）	26.7% （8人）	16.7% （5人）	16.7% （5人）	6.7% （2人）	30.0% （9人）	3.3% （1人）
乳児を除く小学校入学前の幼児	120人	22.5% （27人）	20.8% （25人）	18.3% （22人）	7.5% （9人）	15.0% （18人）	5.0% （6人）	25.0% （30人）	0.0% （0人）
65歳～74歳の方	206人	5.8% （12人）	10.2% （21人）	24.8% （51人）	12.1% （25人）	9.2% （19人）	2.9% （6人）	34.5% （71人）	12.6% （26人）
75歳以上の方	184人	2.2% （4人）	9.2% （17人）	22.8% （42人）	12.0% （22人）	8.2% （15人）	4.9% （9人）	35.9% （66人）	9.2% （17人）
介護を必要とする方	55人	10.9% （6人）	14.5% （8人）	21.8% （12人）	18.2% （10人）	5.5% （3人）	5.5% （3人）	34.5% （19人）	5.5% （3人）
障がいのある方	79人	12.7% （10人）	10.1% （8人）	25.3% （20人）	24.1% （19人）	12.7% （10人）	2.5% （2人）	26.6% （21人）	7.6% （6人）
児童（小学生）	126人	17.5% （22人）	20.6% （26人）	27.0% （34人）	8.7% （11人）	12.7% （16人）	4.0% （5人）	25.4% （32人）	5.6% （7人）
生徒（中・高校生）	136人	13.2% （18人）	24.3% （33人）	30.1% （41人）	11.8% （16人）	11.8% （16人）	3.7% （5人）	31.6% （43人）	4.4% （6人）
学生（専門学校・大学生等）	84人	16.7% （14人）	25.0% （21人）	33.3% （28人）	9.5% （8人）	11.9% （10人）	1.2% （1人）	32.1% （27人）	7.1% （6人）
いずれもない	216人	2.8% （6人）	7.9% （17人）	22.7% （49人）	6.5% （14人）	6.0% （13人）	3.2% （7人）	47.7% （103人）	7.4% （16人）

(15) 日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（複数回答）

・地域の方へ日常生活の中で手伝ってもよいと思うものについては、「見守りや安否確認の声かけ」30.3%でもっとも多く、年代別でみると、「30代」、「40代」が30%台あります。次いで「地域の行事・イベント」が27.4%、「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」が22.0%となります。



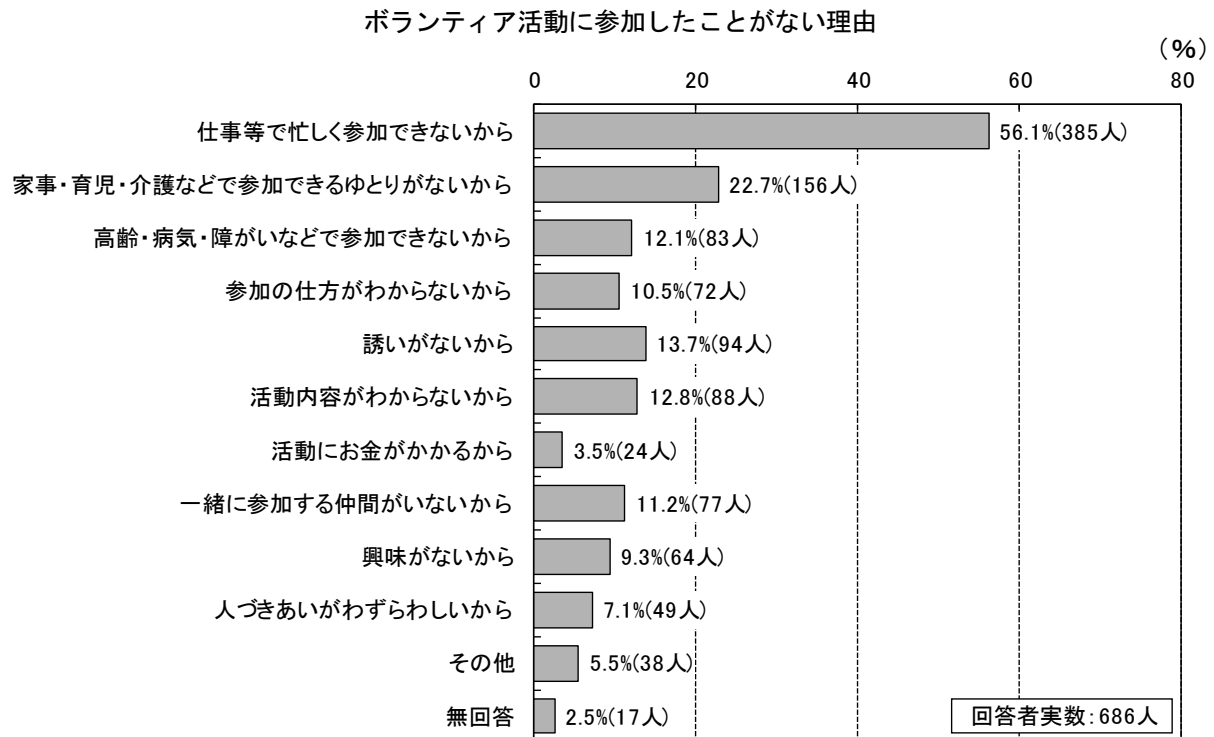
日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（年代別）

	回答者実数	見守りや安否確認の声かけ	話し相手	買い物	家の片付けやごみ出しなど	食事の提供	通院など外出の付添	役所などへの用事・連絡	庭の掃除	短時間の子ども預かり
20代	66人	21.2% (14人)	7.6% (5人)	4.5% (3人)	0.0% (0人)	1.5% (1人)	4.5% (3人)	3.0% (2人)	6.1% (4人)	9.1% (6人)
30代	121人	37.2% (45人)	17.4% (21人)	9.1% (11人)	9.1% (11人)	3.3% (4人)	5.0% (6人)	5.8% (7人)	9.9% (12人)	19.8% (24人)
40代	150人	34.7% (52人)	13.3% (20人)	6.7% (10人)	8.7% (13人)	1.3% (2人)	4.0% (6人)	7.3% (11人)	11.3% (17人)	8.0% (12人)
50代	174人	29.3% (51人)	9.8% (17人)	10.9% (19人)	6.9% (12人)	2.3% (4人)	2.3% (4人)	5.2% (9人)	7.5% (13人)	9.2% (16人)
60代	221人	29.9% (66人)	15.4% (34人)	7.7% (17人)	5.4% (12人)	3.6% (8人)	5.0% (11人)	7.2% (16人)	6.8% (15人)	5.9% (13人)
70代	172人	27.3% (47人)	13.4% (23人)	4.7% (8人)	4.7% (8人)	0.0% (0人)	2.9% (5人)	8.1% (14人)	7.0% (12人)	2.9% (5人)

	回答者実数	子育ての相談	子どもの孤立(子どもの貧困対策)の支援	地震や台風など災害時、緊急時の手助け	悩みごと・心配ごとの相談相手	地域の行事・イベント	その他	様々な理由により手助けできない	無回答
20代	66人	7.6% (5人)	12.1% (8人)	15.2% (10人)	4.5% (3人)	30.3% (20人)	1.5% (1人)	22.7% (15人)	4.5% (3人)
30代	121人	17.4% (21人)	19.8% (24人)	28.9% (35人)	10.7% (13人)	38.0% (46人)	0.8% (1人)	21.5% (26人)	2.5% (3人)
40代	150人	9.3% (14人)	12.0% (18人)	29.3% (44人)	8.7% (13人)	30.7% (46人)	1.3% (2人)	21.3% (32人)	7.3% (11人)
50代	174人	6.3% (11人)	8.0% (14人)	21.3% (37人)	6.9% (12人)	23.6% (41人)	2.9% (5人)	24.1% (42人)	7.5% (13人)
60代	221人	4.1% (9人)	5.4% (12人)	17.6% (39人)	4.5% (10人)	29.4% (65人)	7.2% (16人)	19.0% (42人)	13.1% (29人)
70代	172人	2.9% (5人)	4.1% (7人)	20.3% (35人)	5.8% (10人)	17.4% (30人)	5.8% (10人)	20.9% (36人)	20.3% (35人)

(16) ボランティア活動に参加したことがない理由（複数回答）

- ・ボランティア活動へ参加したことがない理由については、「仕事等で忙しく参加できないから」が56.1%、「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」が22.7%と時間的な余裕がないという回答が高くなっています。次いで、「誘いがないから」が13.7%となっています。
- ・年代別にみると、「仕事等で忙しく参加できないから」は30代～50代で60%台、「20代」では57.1%となります。「家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから」は「30代」が45.3%、他の年代では20%台以下となります。



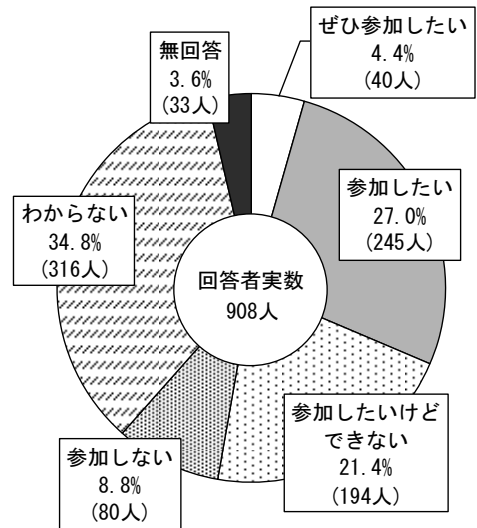
ボランティア活動に参加したことがない理由（年代別）

	回答者実数	仕事等で忙しく参加できないから	家事・育児・介護などで参加できるゆとりがないから	高齢・病気・障がいなどで参加できないから	参加の仕方がわからないから	誘いがないから	活動内容がわからないから	活動にお金がかかるから	一緒に参加する仲間がないから	興味がないから	人づきあいがわずらわしいから	その他	無回答
20代	56人	57.1% (32人)	21.4% (12人)	0.0% (0人)	16.1% (9人)	21.4% (12人)	21.4% (12人)	3.6% (2人)	25.0% (14人)	14.3% (8人)	3.6% (2人)	0.0% (0人)	3.6% (2人)
30代	106人	63.2% (67人)	45.3% (48人)	3.8% (4人)	16.0% (17人)	15.1% (16人)	12.3% (13人)	2.8% (3人)	15.1% (16人)	12.3% (13人)	5.7% (6人)	2.8% (3人)	0.9% (1人)
40代	127人	65.4% (83人)	25.2% (32人)	4.7% (6人)	11.0% (14人)	12.6% (16人)	12.6% (16人)	2.4% (3人)	8.7% (11人)	9.4% (12人)	7.1% (9人)	6.3% (8人)	0.0% (0人)
50代	141人	69.5% (98人)	20.6% (29人)	8.5% (12人)	9.9% (14人)	15.6% (22人)	17.7% (25人)	6.4% (9人)	12.1% (17人)	11.3% (16人)	6.4% (9人)	2.8% (4人)	0.0% (0人)
60代	151人	49.0% (74人)	12.6% (19人)	13.9% (21人)	8.6% (13人)	13.9% (21人)	10.6% (16人)	4.0% (6人)	9.9% (15人)	8.6% (13人)	7.3% (11人)	7.3% (11人)	3.3% (5人)
70代	103人	30.1% (31人)	15.5% (16人)	37.9% (39人)	4.9% (5人)	6.8% (7人)	5.8% (6人)	1.0% (1人)	3.9% (4人)	1.9% (2人)	10.7% (11人)	11.7% (12人)	8.7% (9人)

(17) 今後のボランティア活動への参加意向

・今後のボランティア活動への参加意向については、「わからない」がもっとも多く 34.8%、参加したい割合は、「参加したい」が 27.0%、「参加したいけどできない」が 21.4%、「ぜひ参加したい」4.4%で合わせると、52.8%を占めます。

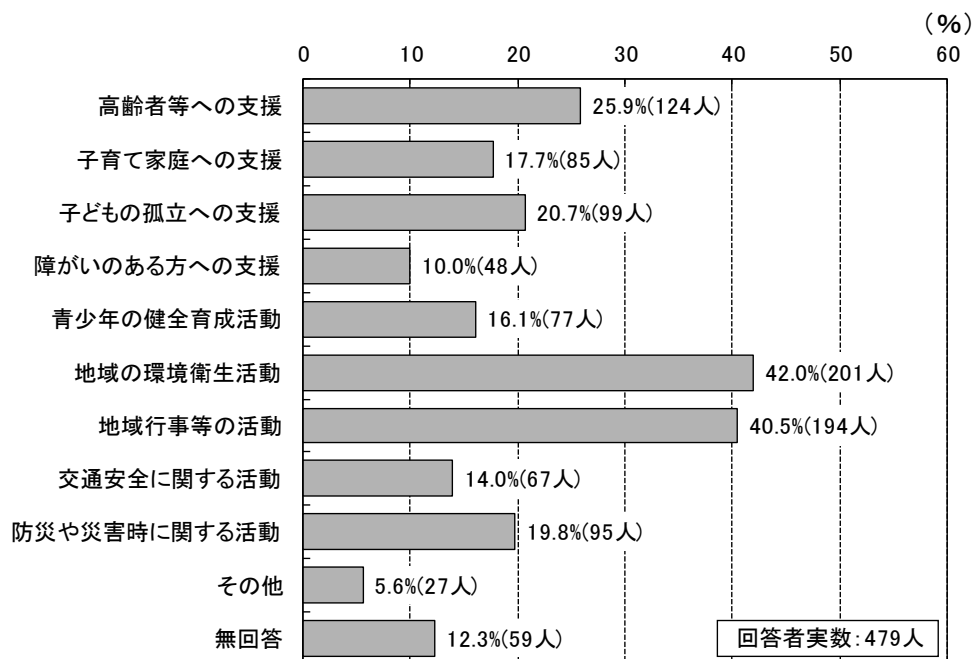
今後のボランティア活動への参加意向



(18) 参加してみたいボランティア活動（複数回答）

・今後、参加してみたいと思うボランティア活動については、「地域の環境衛生活動」が 42.0%でもっとも高く、続いて「地域行事等の活動」が 40.5%、「高齢者等への支援」が 25.9%、「子どもの孤立への支援」が 20.7%となります。

参加してみたいボランティア活動



- ・性別にみると、「地域の環境衛生活動」、「地域行事等の活動」、「防災や災害時に関する活動」、「青少年の健全育成活動」の4つのボランティア活動の意向については、いずれも「男性」の割合が10ポイント以上高く、中でも「地域の環境衛生活動」では「女性」の割合を28.6ポイント上回っており、男女差がもっとも大きくなります。
- ・「女性」では、「子育て家庭への支援」、「子どもの孤立への支援」、「高齢者等への支援」が「男性」より高く、中でも「子育て家庭への支援」では「男性」の割合を13.2ポイント上回っています。

参加してみたいボランティア活動（性別）

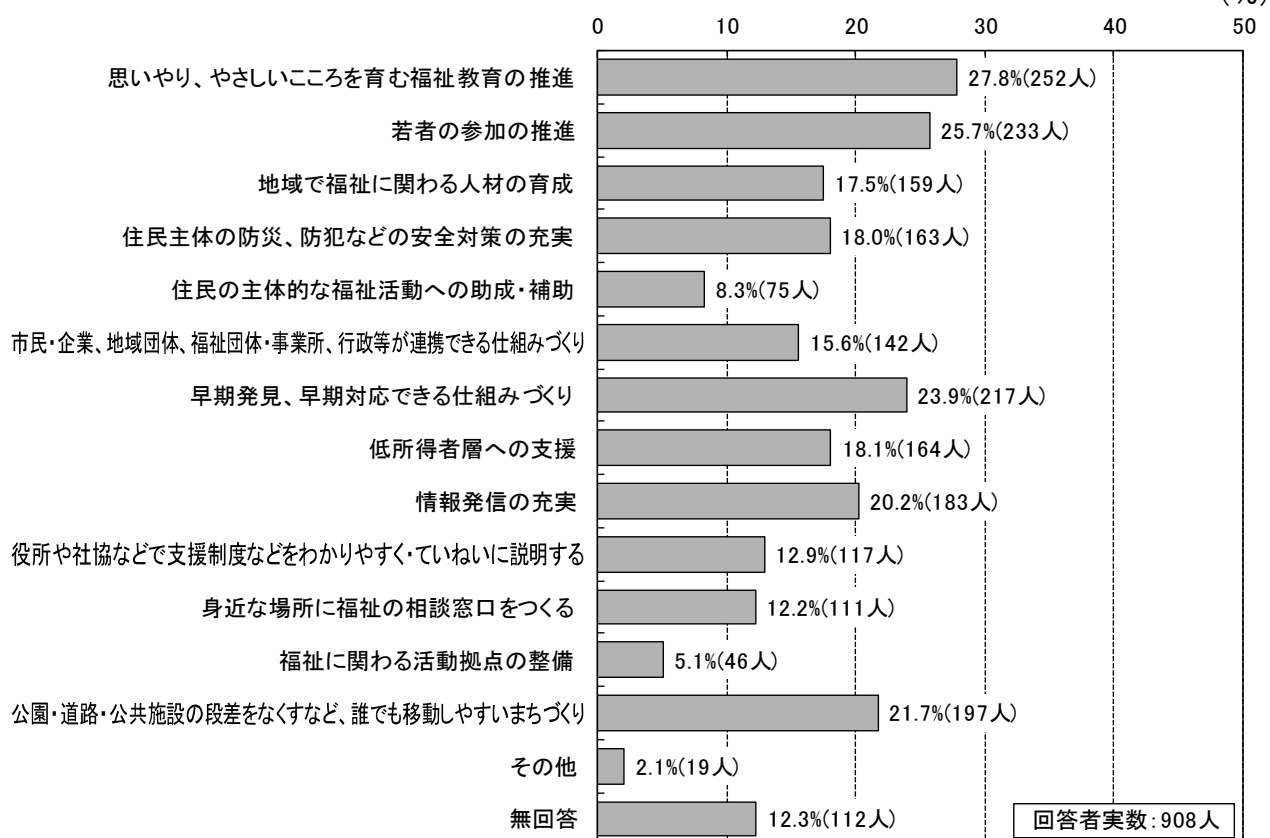
	回答者実数	支援 高齢者等への	子育て家庭への支援	子どもの孤立への支援	障がいのある方への支援	青少年の健全育成活動	地域の環境衛生活動	地域行事等の活動	交通安全に関する活動	防災や災害時に関する活動	その他	無回答
男性	208人	23.6% (49人)	10.1% (21人)	15.9% (33人)	10.1% (21人)	23.6% (49人)	58.2% (121人)	50.5% (105人)	15.9% (33人)	28.4% (59人)	3.4% (7人)	7.2% (15人)
女性	270人	27.8% (75人)	23.3% (63人)	24.4% (66人)	10.0% (27人)	10.4% (28人)	29.6% (80人)	33.0% (89人)	12.6% (34人)	13.3% (36人)	7.4% (20人)	16.3% (44人)
男女差		-4.2	-13.2	-8.5	0.1	13.2	28.6	17.5	3.3	15.1	-4.0	-9.1

(19) 福祉を充実させるために、必要な取り組み

- ・南城市の福祉を充実させるために、必要な取り組みについては、「思いやり、やさしいところを育む福祉教育の推進」が27.8%でもっとも高いです。
- ・また、「若者の参加の推進」が25.7%、「早期発見、早期対応できる仕組みづくり」が23.9%で比較的高くなります。

福祉を充実させるために、必要な取り組み

(%)



資料3 自治会長、民生委員・児童委員への小アンケートより

1. 自治会長小アンケート

- ・自治会への加入率は65.7~100%だが、アパートや転入者はほとんど加入しない。
- ・入居の条件の一つに自治会会員に加入することになっているので100%加入(団地)。しかし活動への参加は非常に少ない。
- ・子供の行事や祭りには積極的に参加するが、共同作業などには参加が少ない。
- ・自治会で今後必要なことは、地域住民の憩いの場、居場所づくりが必要。
- ・イベント等を強化し、区民同士でコミュニケーションを図る(住民同士で地域のことを知ることや、隣近所の関わりの場を提供)
- ・民生委員も区長もなり手がいない状況で、若手からは仕事の関係もあり、年配の方をお願いしたいという声強い。
- ・ひとり暮らしの家庭への声掛け、老人世帯、障がい者世帯などの見守り、支援が必要と思う。
- ・戸別訪問は同性なら行きやすいが、異性だと行きにくいので男女の民生委員がほしい。
- ・プライバシーに立ち入ることになるので、ほぼ引き受けてもらえず区長が責任を取らざる得ない自現実もあるので行政の本腰が求められる。
- ・行政に対して助成金を増やしていただきたい(ミニデイ等の備品の助成や地域の実情に即した補助)。区に対して情報を流してほしい。(ひとり暮らしの方の状況、生活保護や障害の程度など公開できる範囲でもいいので)
- ・フックン・シーちゃん事業を受託し、海岸緑地広場に花を植え、草刈りを実施したが、区民が継続してほしいとのことなので、続けて補助を受けられるようにしてほしい。
- ・職員に地域の福祉向上のために自治会活動に参加するよう指導してほしい。
- ・行政は障がい者や高齢者等が安心して活動できる場、イベント等の充実を図ってもらいたい。

2. 民生委員・児童委員小アンケート

- ・ひとり暮らしの老人や、引きこもりの方との連絡のとり方をどうしたら良いのか。
- ・子ども達の顔を日常的に見る状況ではないので、誰の子なのか、貧困の実態、問題を抱えている子の発見などが難しい。
- ・自治会との連携が取れていない(個人データ保護のため、自治会長も分からないらしく共有できない。ひとり暮らしの老人との家族情報共有ができない)
- ・民生委員に必要なこととしては地域行事への積極的な参加、委員同士の連携の強化(情報交換、情報交換会を増やすなど)
- ・地域(自治会)では見回り、訪問等を通してつながりを深めてほしい。
- ・行政へは情報の開示(困っている人たちを把握できるようにしてほしい)
- ・社協だよりに支援の仕組みを分かりやすく掲載してほしい。

3. 南城市PTA連合会小アンケート

- ・PTAに関わる保護者が少なく、役員の負担が大きい。PTA役員活動をしていると自分自身にも、家族にも負担をかけてしまう。もっと人が関われば一人にかかる負担が減ると思うのですが。
- ・「縦・横・斜め」の関係がなくなっている。
- ・役所の依頼で受けている役員について、会議が日中の時間(役所の業務内)に行われる。仕事を休んでまで参加できないので委員をやっている意味がない。
- ・PTAは子ども達のことを常に真ん中において考えます。
- ・地域福祉を考えるにあたっては、役所内の「縦・横・斜め」の関係を使ってぜひ、教育委員会とも連携してほしいと思います。
- ・地域福祉計画を策定する部署が「地域の支え合いの輪」を広げるためにPTAとどのように一体となって取り組もうとしているのかも分からないし、どういった役割とか担える部分を求めているのか分かれば意見もしやすい。こんな大まかな説明では主旨に沿った回答とか提案は難しいです。
- ・「自助、互助、共助、公助」は4本柱。互助がないと地域の支え合いは成り立ちません。

4. 南城市母子寡婦福祉会小アンケート

- ・ひとり親家庭をサポートする団体ですが、個人情報保護の関係でひとり親の世帯を把握するのが難しい。毎年会員(年会費千円)を募っていますが、周知が行き渡らない。会員登録されている世帯にしか情報を発信できないので、困っている家庭に役立つ情報が届きにくい現状。
- ・周知の方法は試行錯誤しながらですが、若い役員も増えてきており、若い世代が求めているニーズも調査しながら若い人たちの意見も取り切れながら会を継続していきたい。
- ・登録会員には母子回グループLINEやハガキでできる限り情報発信をしています。
- ・会の行事の際には、子どもたちにも声かけをし、お母さん方ともフラットな雰囲気づくりを心がけ困りことがないかなど、会話の中で気軽に話せるような雰囲気づくりに努めています。また、社会福祉協議会からの食材提供や企業からのランドセル寄贈など、地域や周りの方々との協力があることも親子に伝えるようにしています。そのような経験で他人を思いやる心が育まれればと思います。
- ・日頃地域の皆さんから母子会へご協力を頂いているので、社会貢献として母子会で令和2年3月にビーチクリーンを計画しています。

【つながりづくり】

- ・昨年「第2回みんなおいでよ! Kidsまつり」やフリーマーケットを開催し、つながる場づくりも目的で開催しています。
- ・その際には青年連合会などにもスタッフとして協力してもらい、他団体とのつながりもつくるようにしています。

【やってみたいこと】

- ・資格取得ができる講習会を開催したい。PCスキルや簿記、経理などの資格取得の希望があるが市内での開催がないため断念したり、那覇まで通って受講している方もいる。市内であれば時短にもなりスキルアップの機会を得られ、家庭にも相乗効果が生まれるのではないかと。

- ・学習塾と提携した学習支援もしくは学習塾の運営。学習塾もひとり親家庭からの要望が多い。予算などが関わってくるので課題があるが、子どもたちが学べる場を作りたい。
- ・自立支援事業として民間アパートを活用し、生活が立ちいかない家庭が一定期間入居し、その間サポートスタッフによる自立に向けた支援事業。
- ・昨今、貧困に関する施策もありますが、ひとり親家庭が求めるものを把握し実態に沿った施策をつくってほしい。負の連鎖を断ち切るためには子ども支援と同時に親の収入アップも不可欠であります。
- ・資格取得は収入増になったり、転職に有利に働いたりしますので、親への支援策もお願いします。
- ・ひとり親家庭一人ひとりに情報が行き渡るような方法を行政とともに考え、つくっていききたい。母子会と行政ができることを話し合いながら、良い体制がつくれたらと思います。
- ・ひとり親家庭は主にお母さんと子ども世帯のため、災害時には逃げ遅れる恐れがあります。災害時の安否確認や避難行動など、ひとり親家庭も視野に入れた防災計画などを策定していただきたい。

5. 南城市青少年育成市民会議小アンケート

- ・本団体は、市内の青少年に関連する各種団体を構成としているが、それぞれの団体において加入者が減少している。
- ・毎月第3金曜日の「少年を守る日」に各学校の教職員、PTAと共に「夜間巡回パトロール」を実施している。

6. 南城市青年連合会小アンケート

- ・若い世代が加入してこない
- ・独居老人宅での草刈
- ・クリスマスのイベント（各家庭へのプレゼント配布）
- ・加入者が多ければ、現在行っているイベントの規模拡大。
- ・規模拡大のために市と協力できれば宣伝効果にもつながるのではないかな。
- ・若い世代の地域福祉に関心を持ってもらう雰囲気醸成する。

7. PTA子ども会小アンケート

- ・区の行事等で子ども達の参加は多いが、父母の参加が少なく、特に他地域から来られた方の参加がない。
※PTA参加の声かけ、公民館から行事とかの放送あり。
- ・区の清掃日の時、PTAとしては県道沿いの空き缶・ゴミ拾い(年2回)、綱づくり
- ・現在、区役員、青年会が色々なことを計画しています。
- ・年末に「2019年うふぐすくを振り返る」スライドショー等
- ・公民館を児童館としての利用。

8. 南城市女性連合会小アンケート

- ・各字の婦人会、女性会活動がなくなっているため、会員減少を止められない。対策として、地域活動をしている女性グループ賛助団体として所属してもらうよう声かけを行っている。少しその結果が出てきた。
- ・評議員や役員になる人がいない。
- ・会員の高齢化。若い人が加入しない。
- ・安全に暮らせる地域づくりに役立つ行事には、積極的に参加するようにしている（交通安全運動、防犯パトロール等）
- ・社協と協力して施設の子ども達と交流したり（女性会）、なんじい交通安全お守りを手作りして園児に配布している。（交母の会）島添の丘のバザーへの協力。
- ・環境問題について理解を深めるための研修を企画している。
- ・地域に花植えをしてもらえるよう呼びかけと補助
- ・尚巴志ハーフマラソンでの給水ボランティア、南城市のPR



資料4 用語の解説

あ行

アウトリーチ

援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して、積極的に働きかけて支援の実現をめざすこと。訪問支援。

インフォーマルサービス

家族、近隣、ボランティアなどによる制度化されていない支援のことをいう。

か行

権利擁護

疾病や障害のため、自らの権利や介護、援助のニーズを表明することが困難な人に代わって、その権利やニーズ表明を行うこと。また、弱い立場にある方の人権侵害(虐待や財産侵害など)を防ぐこと。

さ行

社会福祉協議会

社会福祉法に「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」と規定され、社会福祉法人として中立性・公共性が高く、民間組織として地域福祉活動を行う組織。

情報バリアフリー

ここでは「情報アクセシビリティ」を表している。(アクセシビリティとは、情報システムの利用しやすさを表す言葉。)

アクセシビリティという単語が一般的でないのでより分かりやすい表現とした。

成年後見制度

認知症や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が低下した方々の財産管理や契約行為等をサポートする制度。本人の状態にあわせて「後見」「保佐」「補助」に分類し、本人を保護する。

た行

特定健診

生活習慣病予防のために健康診査・保健指導を行う。40～74歳の健康保険加入者(被扶養者を含む)を対象に、医療保険者(国保、協会健保、組合健保等)が実施する。

な行

日常生活自立支援事業

認知症や知的障がい等で判断能力が不十分な方の福祉サービスの利用援助や、日常的な金銭管理・重要書類等の預かり・保管などの支援を行い、権利擁護を図る事業。

は行

バリアフリー

障がい者等が社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)するという意味。もともとは、建築用語として登場し、建物内の段差の解消など物理的障壁の除去という意味合いが強いが、本計画では、障がい者の社会参加を困難にしている物理的、社会的、制度的・心理的なすべての障壁(バリア)を除去するという意味で用いている。

避難行動要支援者

災害時に自力での避難が難しく、第三者の手助けが必要な高齢者、障がい者、難病患者などの災害弱者。2014年(平成26)4月に施行された改正災害対策基本法で、避難行動要支援者の避難を迅速・円滑に進め、命の危険から守る支援制度がスタートした。かつては「災害時要援護者」とよばれた。

ファミリーサポートセンター

「子育ての応援をしてほしい人(おねがい会員)」と「子育てのお手伝いできる人(サポート会員)」が会員登録し、相互援助による支えあい・たすけあいを行う会員組織。

ボランティアセンター

ボランティア活動を希望する方を登録し、ニーズにあわせて斡旋するとともに、ボランティア活動の振興をめざした各種養成講座や研修会の実施などに取り組む機関。

ま行

民生委員・児童委員

民生委員法に基づき各市町村に配置された民間奉仕者(無報酬のボランティア)。住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、また適切な支援やサービスへの「つなぎ役」の役割を果たしている。

わ行

「我が事・丸ごと」

- ・我が事＝隣近所の他人事を「我が事」と思って捉え行動する。
- ・丸ごと＝困りごと等について、縦割りではなく分野を超えて「丸ごと」捉え、総合的な相談や支援を行う。

資料5 南城市地域福祉計画策定委員会規則

平成21年3月31日

規則第8号

改正 平成22年3月9日規則第5号

平成25年4月1日規則第31号

(趣旨)

第1条 この規則は、南城市附属機関に関する条例（平成18年南城市条例第22号）第3条の規定に基づき、南城市地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議する。

- (1) 地域福祉計画の企画立案に関すること。
- (2) 目的達成のための情報収集及び情報交換に関すること。
- (3) 計画の総合的な評価に関すること。
- (4) その他特に必要とする事項

(平22規則5・一部改正)

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保健・医療・福祉関係者
- (3) 公募による市民
- (4) 行政機関の職員
- (5) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(平22規則5・一部改正)

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選でこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長は、その議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じ委員以外の者を会議へ出席させ、意見等を聴くことができる。

(作業部会)

第7条 委員会に作業部会を置き、委員長の指示により次の業務を行うことができる。

(1) 第2条の審議事項の調査に関すること。

(2) 委員会に提出する原案作成に関すること。

(個人情報保護)

第8条 委員会の関係者は、会議で知り得た障害者等のプライバシーの尊重に万全を期するものとし、正当な理由なく個人の秘密を漏らしてはならない。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、福祉部社会福祉課において処理する。

(平25規則31・一部改正)

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成22年3月9日規則第5号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (平成25年4月1日規則第31号)

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

資料6 南城市地域福祉計画策定委員会名簿

	名 前	所 属	備 考
1	上地 武昭	沖縄大学人文学部	教授
2	井上 優子	保健指導センター南城	保健師
3	仲宗根 康之	沖縄県南部福祉事務所	地域福祉班班長
4	呉屋 善永	南城市社会福祉協議会	副会長
5	玉城 恒夫	南城市民生委員・児童委員連絡協議会	大里民協会長
6	上地 寿賀子	南城市母子寡婦福祉会	会長
7	屋比久 一男	南城市身体障がい者福祉協会	会長
8	照喜名 和美	南城市女性連合会	副会長
9	新里 善和	南城市区長会	会長
10	上里 絹代	公募委員	
11	大城 盛昌	公募委員	
12	真境名 元彦	公募委員	
13	与那嶺 紘也	公募委員	

資料 7 南城市地域福祉計画策定の経過

開催日	内容
令和元年 10 月 11 日	第 1 回 南城市地域福祉計画策定委員会 ・ 計画策定の概要 ・ 南城市地域福祉アンケート調査票の検討
令和元年 12 月 6 日	第 2 回 南城市地域福祉計画策定委員会 ・ 前計画の実施状況について ・ 第 3 次南城市地域福祉計画施策体系変更について
令和元年 12 月	南城市の地域福祉についてのアンケート調査 (12 月 25 日回収)
令和元年 12 月	南城市地域福祉小アンケート ・ 自治会長 ・ 民生委員・児童委員
令和 2 年 1 月	南城市地域福祉小アンケート ・ 地域団体・関係団体
令和 2 年 1 月 31 日	第 3 回 南城市地域福祉計画策定委員会 ・ 第 3 次南城市地域福祉計画(案)について ・ 地域福祉住民アンケート集計結果について ・ 自治会長、民生委員各小アンケート集計結果について
令和 2 年 2 月 28 日	第 4 回 南城市地域福祉計画策定委員会 ・ 第 3 次南城市地域福祉計画(案)について

第3次いきいき南城しあわせプラン

南城市地域福祉計画
南城市地域福祉活動計画

令和2年3月 発行

【編集・発行】

南城市役所 社会福祉課

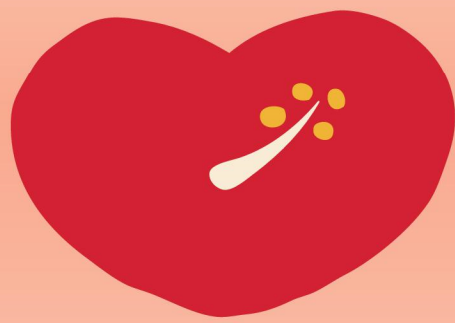
〒901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里 1870 番地

TEL : (098) 917-5334 / FAX : (098) 917-5427

社会福祉法人 南城市社会福祉協議会

〒901-1412 沖縄県南城市佐敷字新里 1870 番地

TEL : (098) 917-5692 / FAX : (098) 917-5694



NANJO CITY